

はじめに

目 次

第Ⅰ章 計画策定の趣旨	1
1 背景・目的	1
2 計画の位置付け・性格	2
3 計画の対象	3
4 計画の期間	3
5 計画の進捗管理	3
第Ⅱ章 若者の現状	4
1 若者の一般的な意識	4
2 日立市の人口構成における若者世代の動向	7
3 意識調査結果からみられる傾向	9
4 ワークショップからみられる傾向	19
第Ⅲ章 若者の課題	20
1 国が示す若者を取り巻く環境	20
2 日立市の上位計画・関連計画での若者応援の視点	22
3 日立市に住む若者の課題	24
第Ⅳ章 基本理念・基本方針	27
1 日立市における若者応援の意義	27
2 基本理念	27
3 基本方針	28
4 目指すべき姿	29
5 「かがやく」とは	29
第Ⅴ章 施策体系	30
第Ⅵ章 個別施策	31
第Ⅶ章 計画の取り組み方	40
第Ⅷ章 計画のロードマップ	41
1 ロードマップ設定の考え方	41
2 ひたち若者かがやきプラン ロードマップ	41
第Ⅸ章 ライフイベントごとの支援メニュー	47
資料編	49

第Ⅰ章 計画策定の趣旨

Ⅰ 背景・目的

- (1) 本市ではこれまで、子育て支援の拡充や、地域医療体制の整備充実、雇用の確保など、幅広い施策を多角的、総合的に推進し、市民の皆様が将来にわたり、安全に安心して住み続けることができる環境とサービスの維持・向上に取り組んでまいりましたが、依然として、就学、就業、住宅の住み替えなどをきっかけとした、子育て世代を含めた若者、特に女性の東京圏や近隣自治体への転出超過や、それに起因する人口減少が続いている状況となっています。
- (2) これを踏まえ、2020年3月に策定した「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、若者の定住を促進し、人口減少を和らげ、市民一人一人が暮らす地域において豊かさと生活の充実感を享受できるまちを目指し、「子どもには夢」を、「若者には輝き」を、「働く世代には充実感」を、「シニア世代には生きがい」を、常に持ち続けていただけるような施策を推進するため、基本方針に若者の定着に向けた施策を重点的に推進することを掲げ、その施策の一つとして、若者が主体となり、同年代の交流や仲間づくりを行い、活躍できる体制づくりを進める施策の方向が示されました。
- (3) 若者世代が生き生きと輝くことで、地域全体の力を高める原動力につながり、子ども、働く世代、シニア世代に与える影響も大きいものになることから、施策を具体化するため、若者世代を中心とした、起業家、各種団体代表、大学生等、そして学識経験者で構成する策定委員会を発足させ、若者世代が生きがいを持ってかがやき、住んでみたいと思えるまちの魅力を、若者世代の参画により創り出し実践できる仕組みや、支援する体制づくりを目指します。
- (4) さらには、若者世代にとって「育ちの場」「学びの場」「成長の場」「安住の場」「活躍の場」となるための環境づくりを推進します。

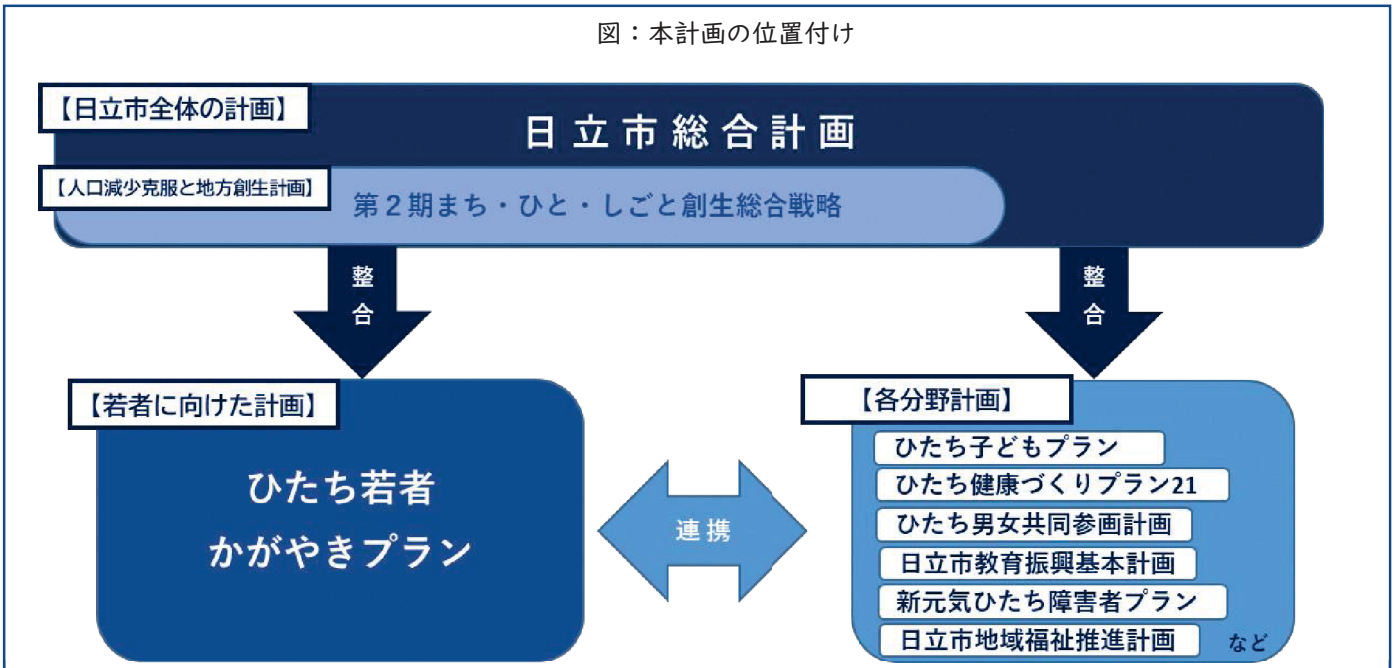
2 計画の位置付け・性格

本計画は、「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、若者世代の活躍と支援に関する環境づくりを推進する計画として策定します。

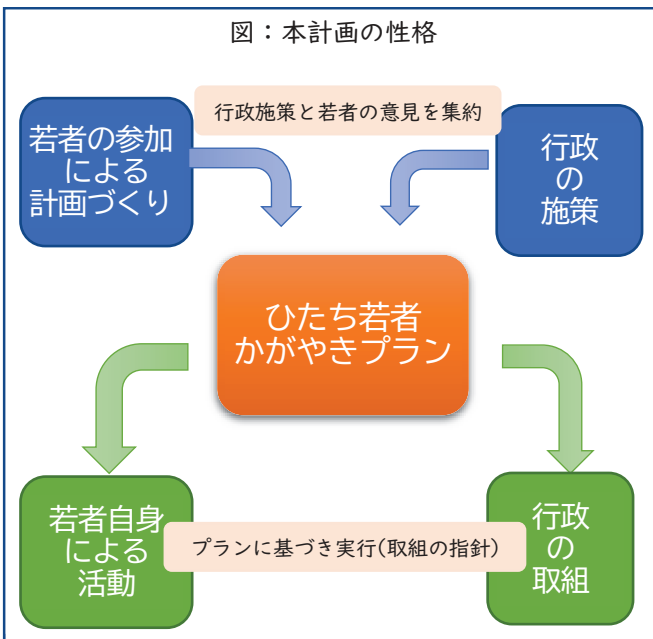
また、「日立市総合計画」を始め、「ひたち子どもプラン」「日立市教育振興基本計画」などの各分野計画との整合性を図ります。

さらに、これからの時代を担う若者自身により策定する本計画に基づき、日立市を舞台に輝きながら、成長し、心豊かに暮らしていける環境づくりの実現に向け、若者と日立市が共に取り組むことを示した計画とします。

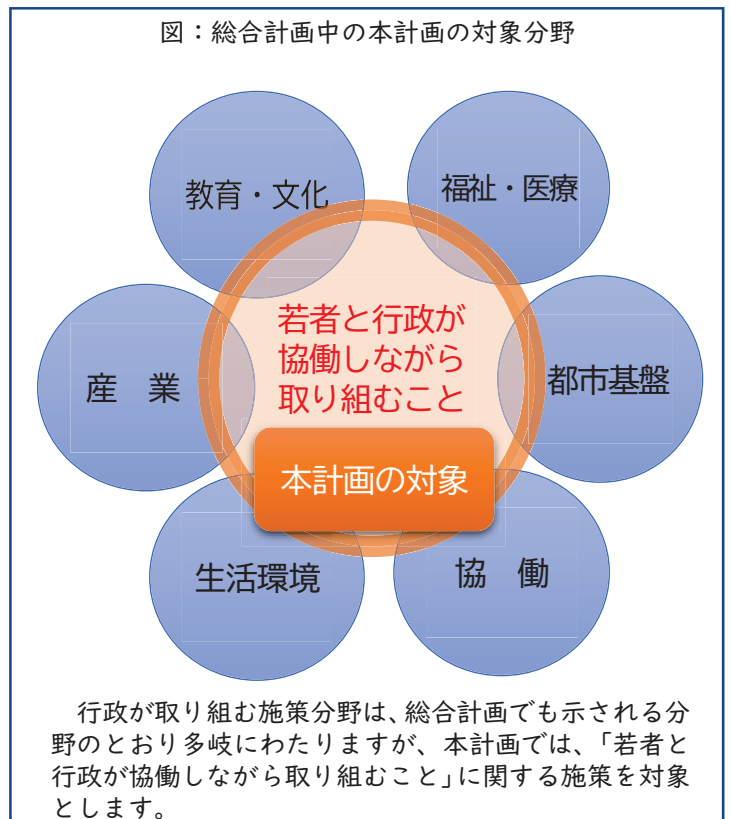
図：本計画の位置付け



図：本計画の性格



図：総合計画中の本計画の対象分野



3 計画の対象

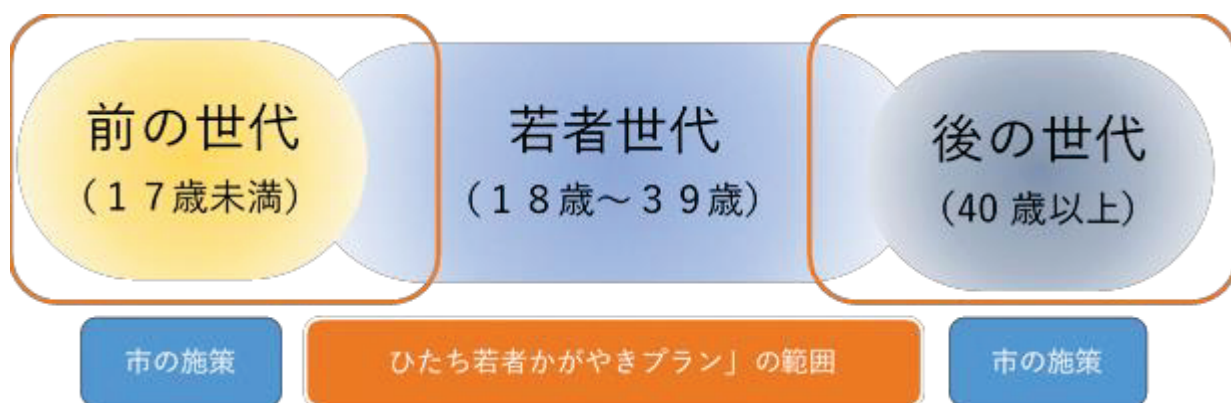
(1) 本計画の対象世代は、若者世代（18歳～39歳）とします。

[若者の定義]

児童福祉法では児童を18歳未満と定め、子ども・若者育成支援推進法に基づき厚生労働省が策定した「子ども・若者ビジョン」では若者を39歳までと定めていることから、日立市における若者の定義は「18歳から39歳まで」とします。

(2) 若者世代（18歳～39歳）の前後世代を対象とする施策について、既に策定されている「ひたち子どもプラン」や「日立市教育振興基本計画」等において推進している場合は、対象となる計画へ案内できるようにします。

図：計画で対象とする世代



4 計画の期間

本計画の期間は、令和3年（2021年）度から令和7年（2025年）度までの5年間とします。ただし、今後の社会情勢の変化等によっては、必要に応じて見直しを行います。

図：計画期間

	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
ひたち若者かがやきプラン	計画策定	計画期間（R3～7年度）				
第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略	計画期間（R2～6年度）					
日立市総合計画	後期基本計画期間（H29～R3年度）		基本計画期間（R4～8年度）			

5 計画の進捗管理

本計画の実効性を確保するため、計画に位置付けた施策については、(仮称)ひたち若者かがやき会議及び庁内課所長で構成する推進連絡会議において、施策の進捗状況などについて確認と点検を行い、必要に応じた改善を通じて推進します。

第Ⅱ章 若者の現状

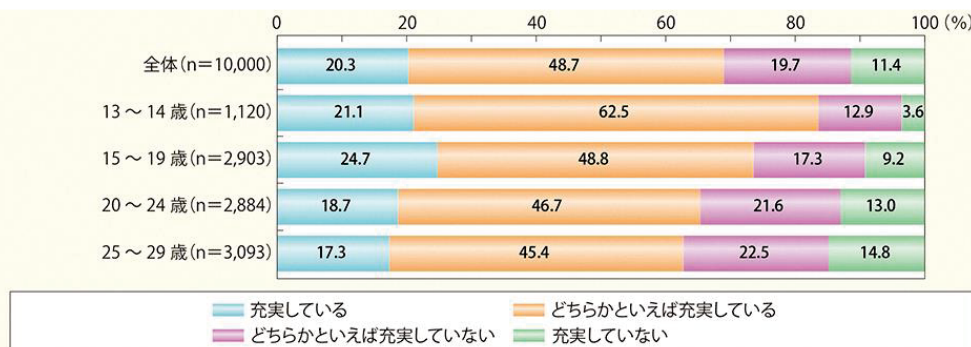
Ⅰ 若者の一般的な意識

令和元年（2019年）度に内閣府で実施した「子供・若者の意識に関する調査」から、若者の充実感や必要な支援についての意識は、以下のとおりです。

(1) 充実感

「どちらかといえば充実している」と回答した者（48.7%）が最も多かった。また、「充実している」又は「どちらかといえば充実している」と回答した者の割合は69.0%であり、「充実していない」又は「どちらかといえば充実していない」と回答した者の割合の31.1%より高い結果となった。年齢区分別でみると、「充実している」又は「どちらかといえば充実している」と回答した者の割合は、年代が若いほど高くなっており、13～14歳（83.6%）が最も高い結果となった。

■ 充実感について

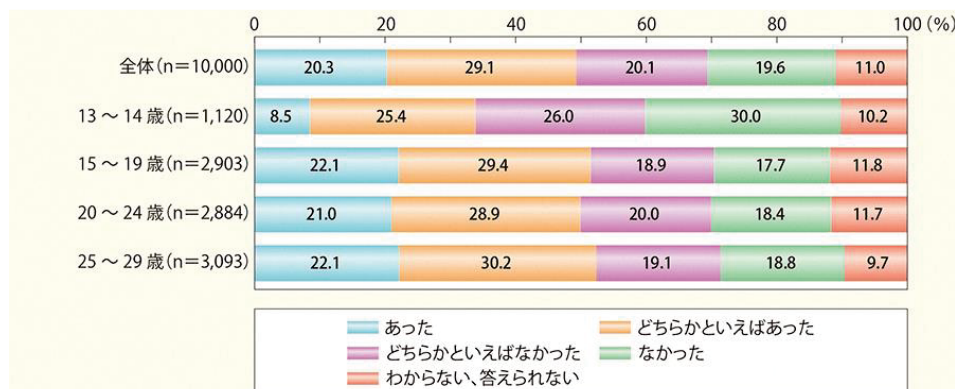


(2) 社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験

ア 困難経験の有無

今までに、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験（困難経験）があったと思うかの質問への回答では、「どちらかといえばあった」と回答した者（29.1%）が最も多かった。また、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者の割合は49.4%であり、「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者の割合の39.7%より高い結果となった。年齢区分別でみると、「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者の割合は25～29歳（52.3%）が最も高い結果となった。

■ 困難経験について

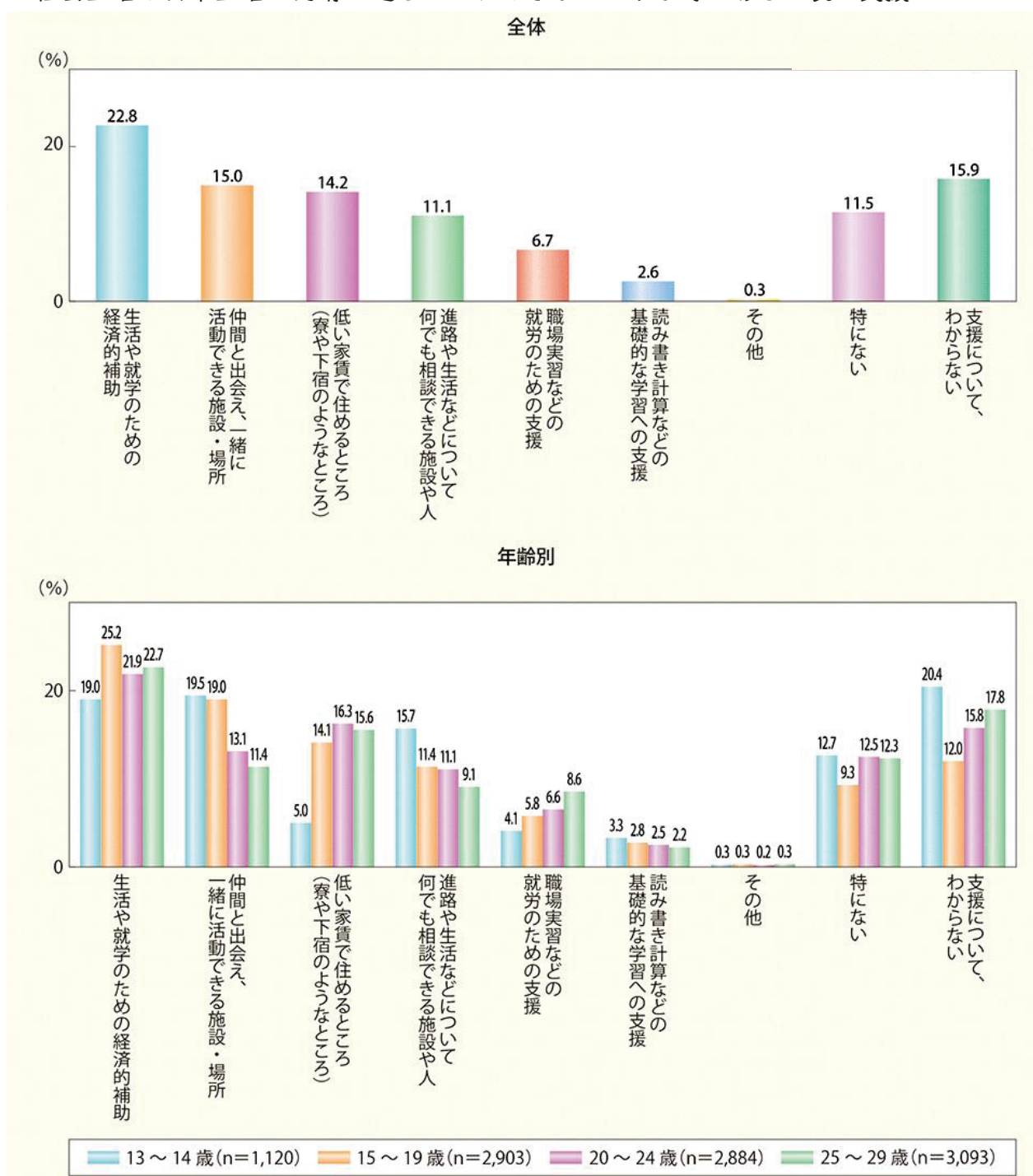


イ あると良いと思う支援

社会生活や日常生活を円滑に送ることができないようなときに、どのような支援があると良いかの質問への回答を見ると、全体で最も高いのは、「生活や就学のための経済的補助」(22.8%)であり、次いで「仲間と出会え、一緒に活動できる施設・場所」(15.0%)、「低い家賃で住めるところ(寮や下宿のようなところ)」(14.2%)、「進路や生活などについて何でも相談できる施設や人」(11.1%)という結果となった。

年齢区分別でみると、13～14歳は「仲間と出会え、一緒に活動できる施設・場所」(19.5%)、「進路や生活などについて何でも相談できる施設や人」(15.7%)などが他の年代と比べて最も高い結果となった。また、どちらの項目も年代が上がるにつれて割合が低くなっている。

■社会生活や日常生活を円滑に送ることができないような時にあると良い支援

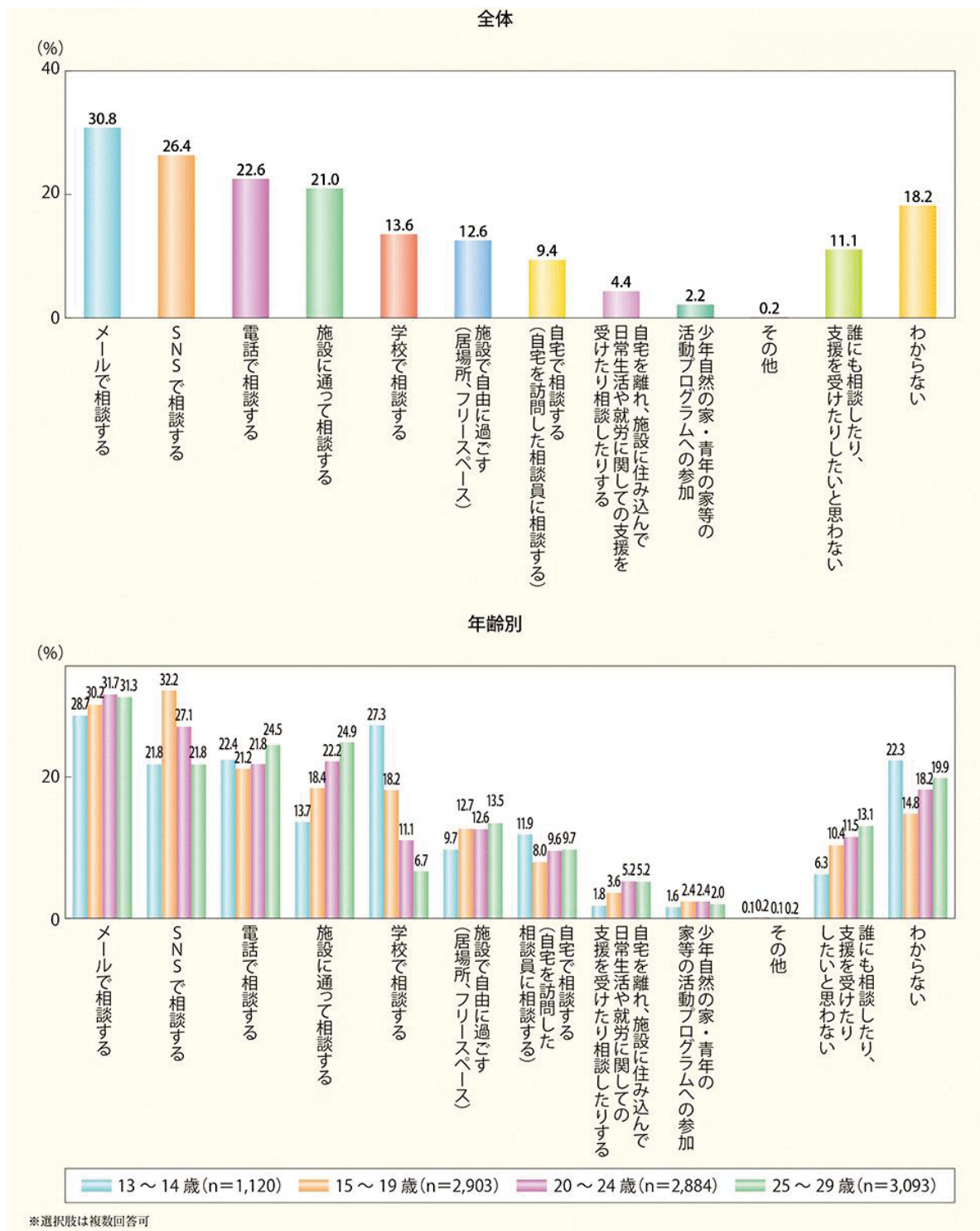


ウ 支援の形態

公的な支援機関や専門家から支援を受ける場合に、どのような形で支援を受けたいとかという質問への回答を見ると、全体で最も高いものは、「メールで相談する」(30.8%)であり、次いで高いものは、順に「SNSで相談する」(26.4%)、「電話で相談する」(22.6%)、「施設に通って相談する」(21.0%)という結果となった。

年齢区分別でみると、15～19歳においては、「メールで相談する」(30.2%)よりも、「SNSで相談する」(32.2%)の割合の方が高い結果となった。また、13～14歳は「学校で相談する」(27.3%)が、全体と比べて10ポイント以上高い結果となったが、年代が上がるにつれて、割合は低くなっている。

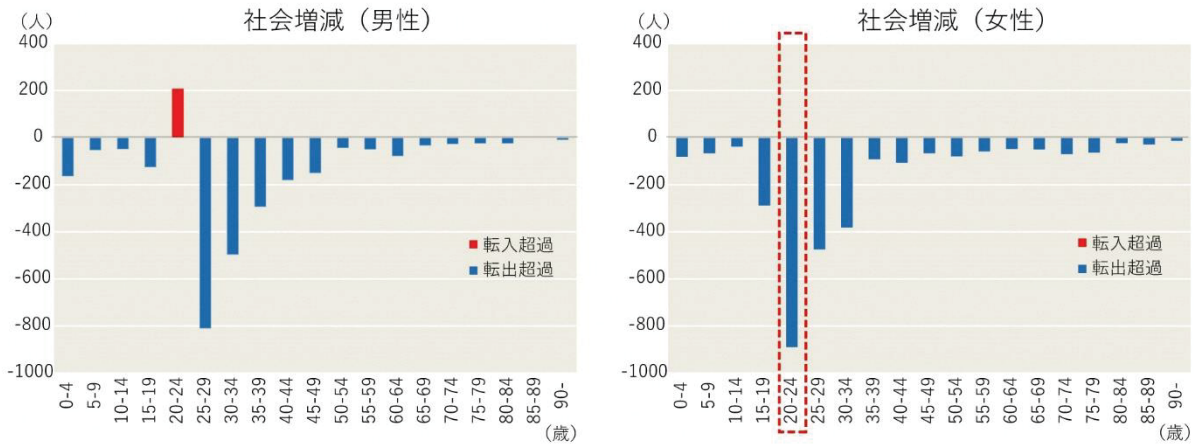
■求める支援の形態



2 日立市の人口構成における若者世代の動向

(1) 年齢別・地域別転入者数・転出者数 (2015 (平成 27) ~2019 (令和元) 年 累計)

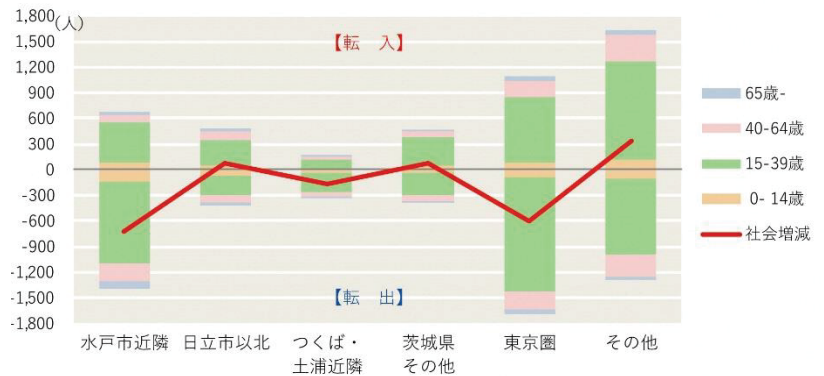
■ 20~24 歳女性の転出超過が大きい (20~24 歳男性は転入超過)。



【出典】住民基本台帳データ

(2) 地域別 転入・転出超過状況 (2019 (令和元) 年)

■ 「水戸市近隣 (水戸市、ひたちなか市、那珂市、東海村)」及び「東京圏 (東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県)」への転出超過が多い。



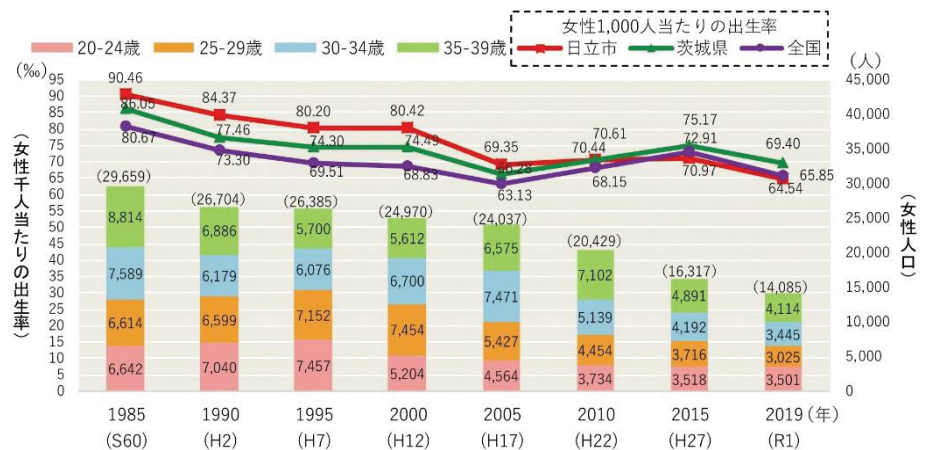
【出典】住民基本台帳データ

水戸市近隣：水戸市、ひたちなか市、東海村
つくば土浦近隣：土浦市、つくば市、守谷市
※その他には国外の転出入を含む。

日立市以北：常陸太田市、高萩市、北茨城市
東京圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

(3) 20~39 歳女性人口と女性 1,000 人当たりの出生率

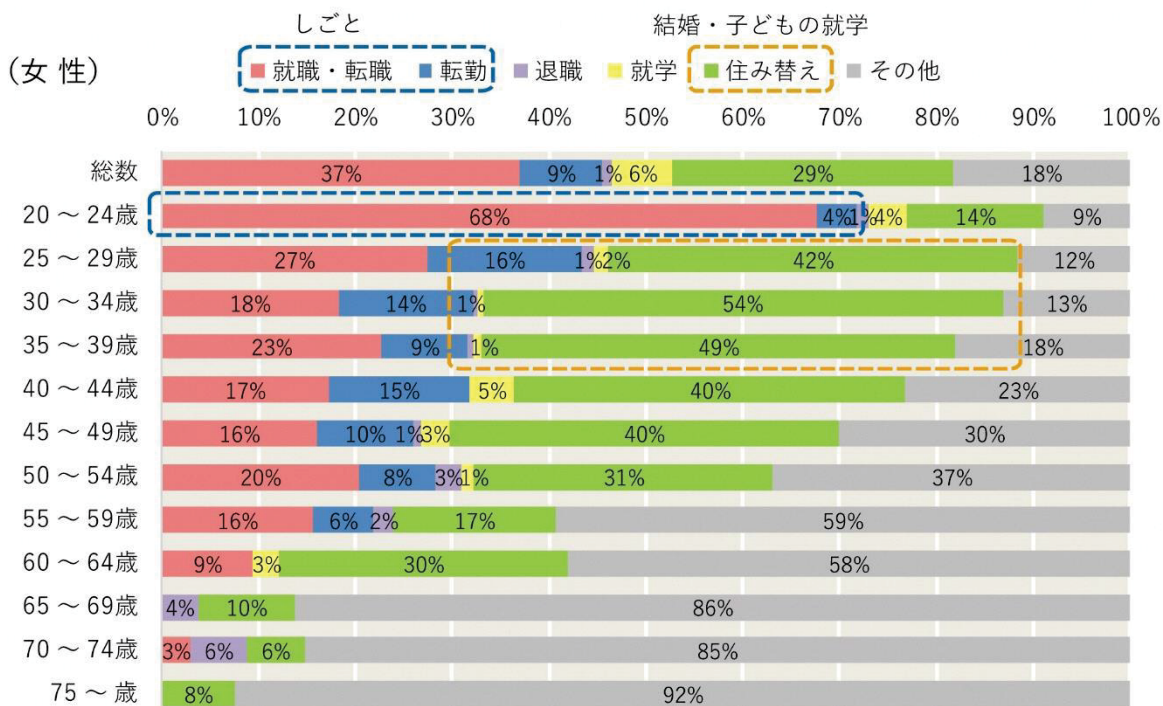
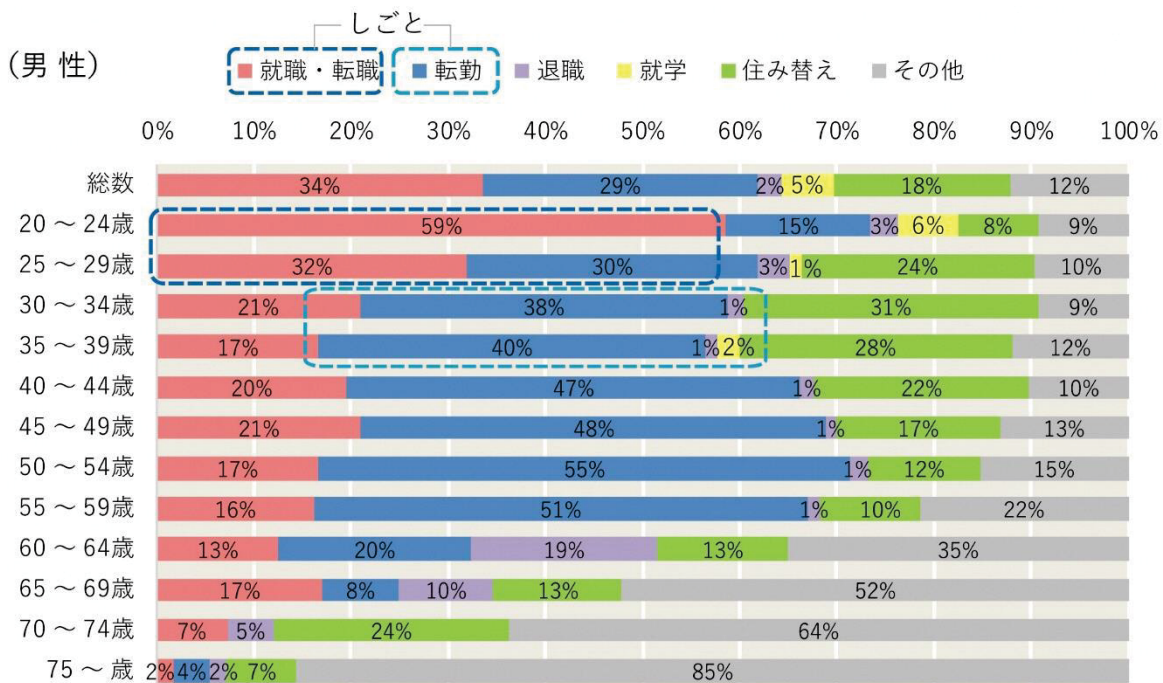
■ H27 以降、本市の女性 1,000 人当たりの出生率は、全国、県と比較して低い。また、20~39 歳女性人口の減少とともに出生数も減少する傾向がある。



【出典】国勢調査、総務省人口推計、厚生労働省人口動態統計、茨城県常住人口調査結果報告

(4) 主たる移動理由（2015（平成27）～2019（令和元）年平均）

- 男性は、20～29歳は就職・転職、30～39歳は転勤が多く、仕事にかかわる移動が多い。
- 女性は、20～24歳は仕事に関わる移動が多く、25～39歳は結婚や子どもの就学を契機に住まいを求めた住み替えによる移動が多い。



【出典】転出入者窓口アンケート調査結果（2015(H27)～2019(R1)年平均値）

その他の傾向

- 総人口に占める20～39歳女性人口の割合が低い。（日立市8.8%、水戸市11.0%、ひたちなか市10.8%）
- 20～29歳人口の男女比差も大きい。（日立市 男10：女7 水戸市 男10：女10 ひたちなか市 男10：女9）

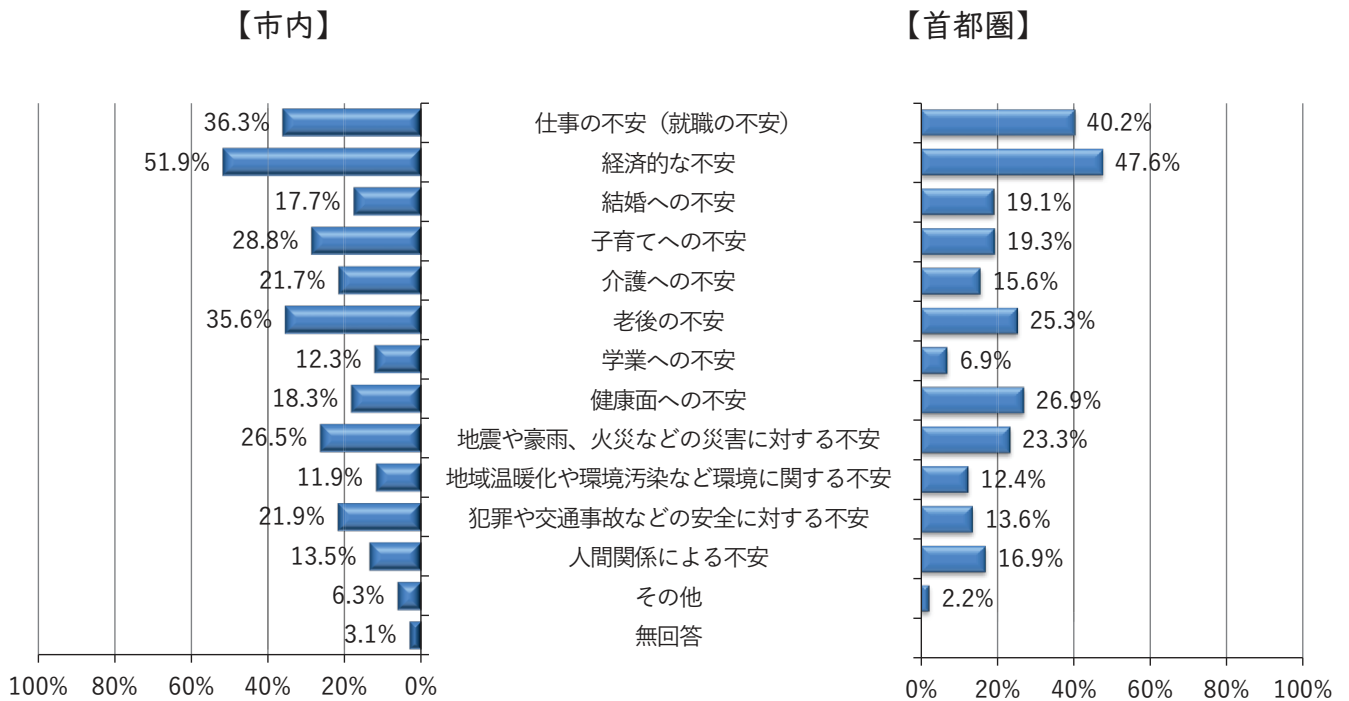
3 意識調査結果からみられる傾向

若者世代の意識の変化や新たな課題を明らかにし、住んでみたい、住み続けたいと思うまちづくりに必要な分野や方向性を把握することを目的に、日立在住者と首都圏居住者の若者世代（18歳～39歳）に対し意識調査を実施した。

■現在不安に感じていること

現在、不安に感じていることはどのようなことですか。（複数回答）

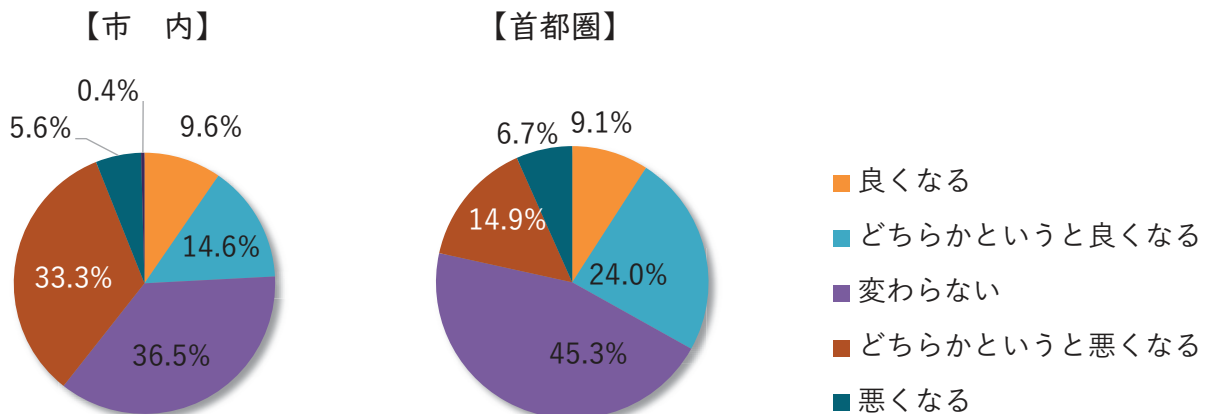
日立在住者、首都圏居住者ともに、経済的な不安、仕事の不安（就職の不安）などを持つほか、老後の不安など将来への不安も感じている。



■将来の暮らしについて

将来の暮らしは、現在と比べてどうなると思いますか。

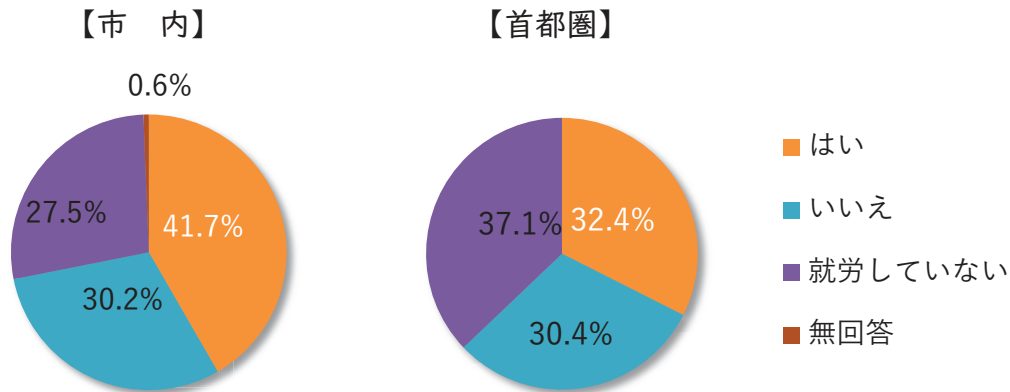
良くなる、どちらかというと良くなる、変わらないという回答が、首都圏居住者は約8割だが、日立在住者は約6割となっており、明るい未来を描きにくくなっている。



■現在の就労環境への満足度

あなたは、現在の就労環境に満足していますか。

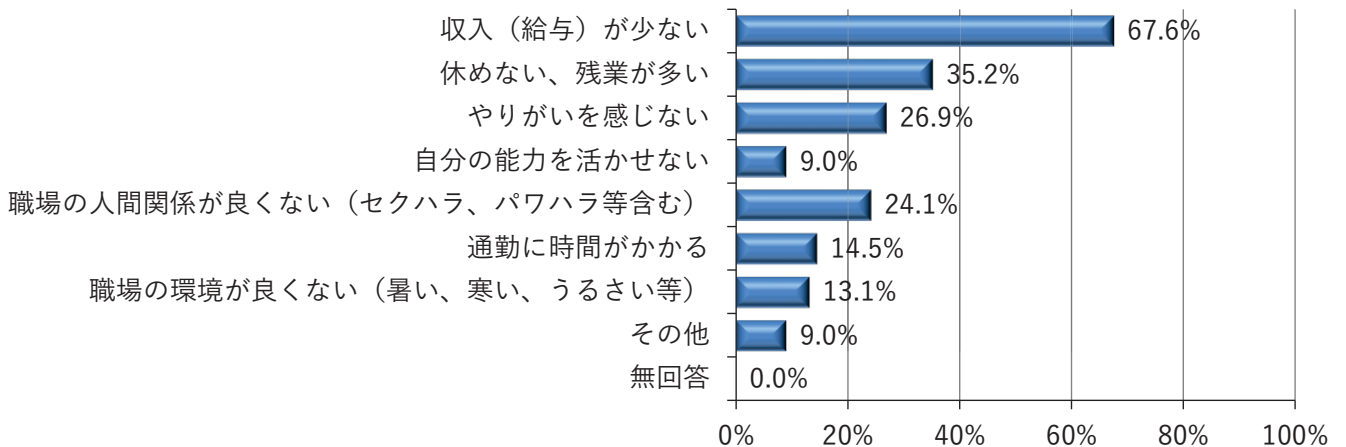
日立市在住の方が、首都圏居住者よりも満足度が高い。



■就労環境に満足していない理由

現在の就労環境に満足していないと回答した理由を教えてください。（市内在住者のみ回答）

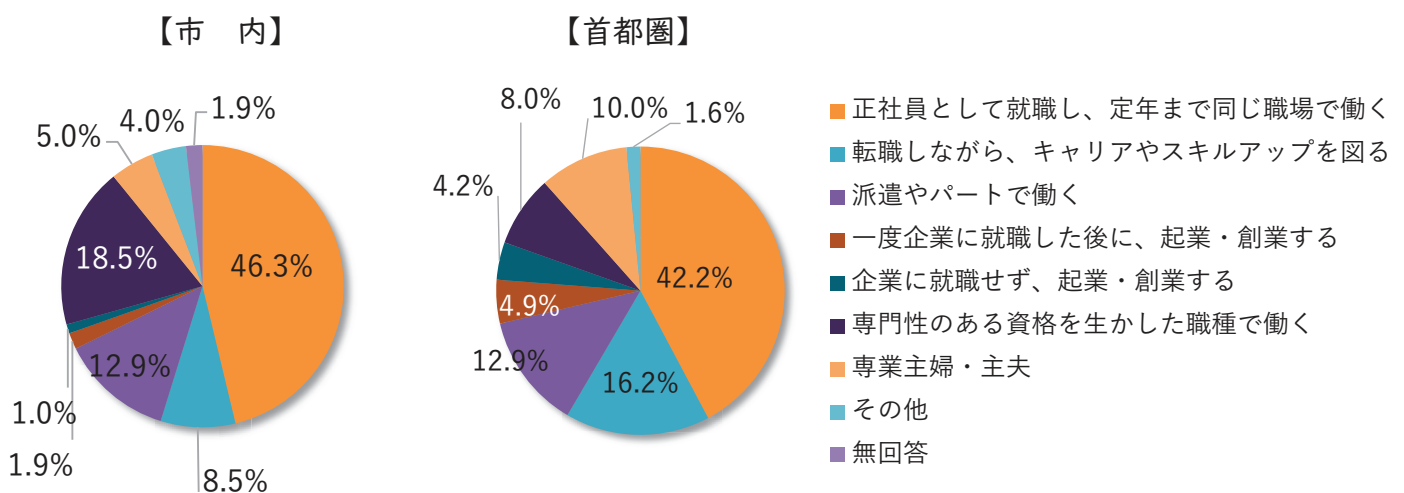
収入（給料）が少ないが最も多く、次いで、休めない・残業が多い、やりがいを感じないが多い。



■希望する働き方

あなたは、どのような働き方をしたいと思っていますか。

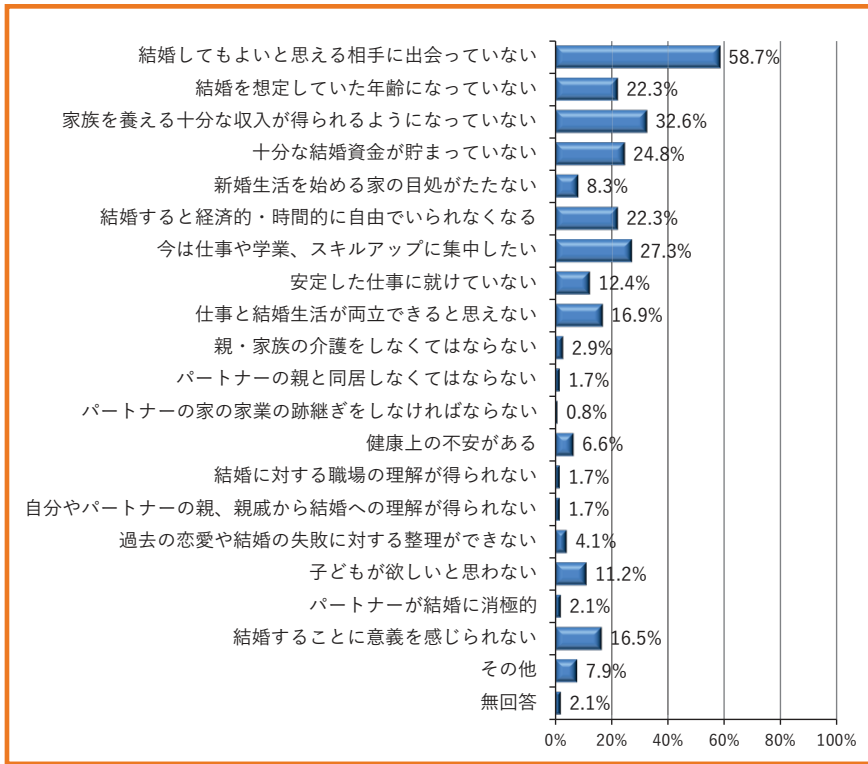
日立市在住者は、首都圏居住者と比べて、キャリアアップより専門性をいかした働き方を志向している。



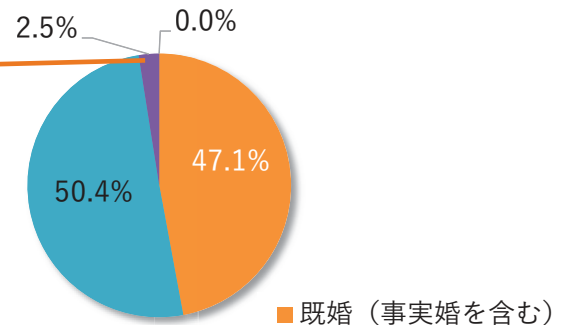
■結婚の状況

あなたは結婚されていますか。
未婚の場合その理由を教えてください。（日立市在住者のみ回答）（複数回答）

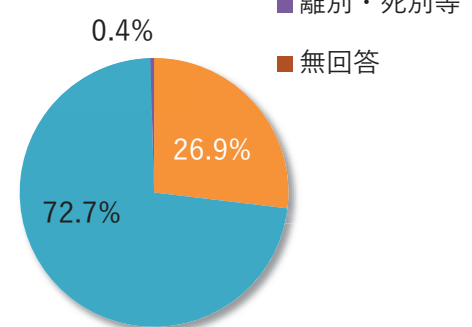
日立市在住者の約5割、首都圏居住者の約7割が未婚である。未婚の理由は、結婚しても良いと思える相手に出会っていないが最も多い。



【市内】



【首都圏】

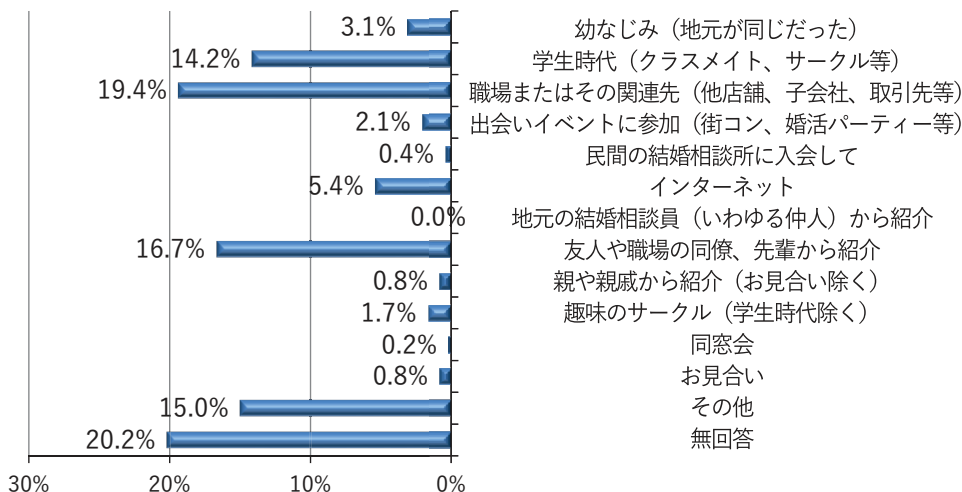


■出会いのきっかけ

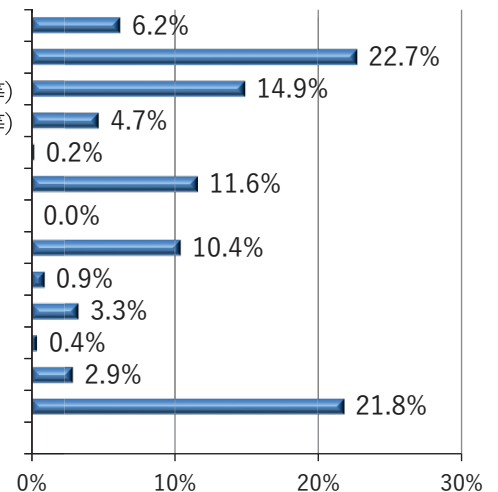
配偶者やパートナーとどのようなきっかけで出会い、お付き合いされましたか。

日立市在住者・首都圏居住者ともに、学生時代（クラスメイト、サークル等）職場またはその関連先、友人や職場の同僚、先輩からの紹介が多い。

【市内】



【首都圏】

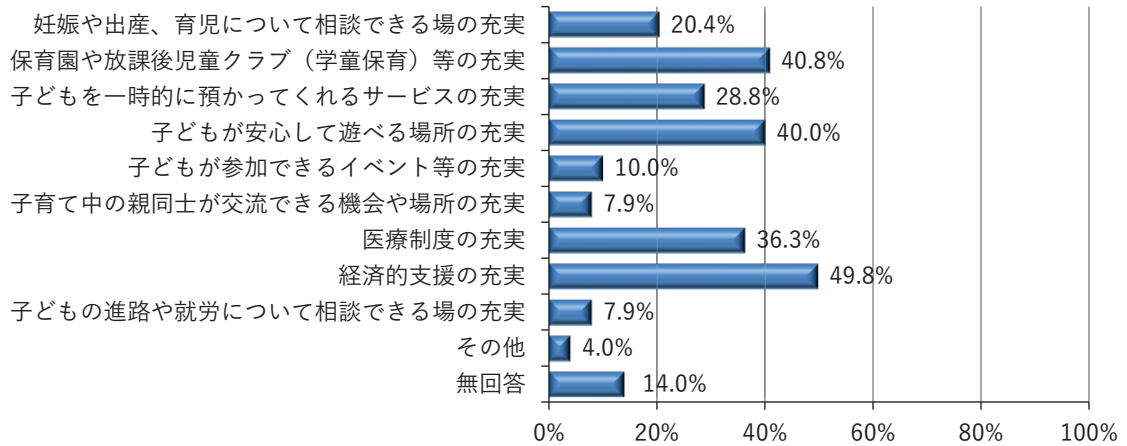


■ 今後充実することを望む子育て支援サービス

子育て支援として、今後どのようなサービスが充実していけばいいと思いますか。

(日立市在住者のみ回答) (複数回答)

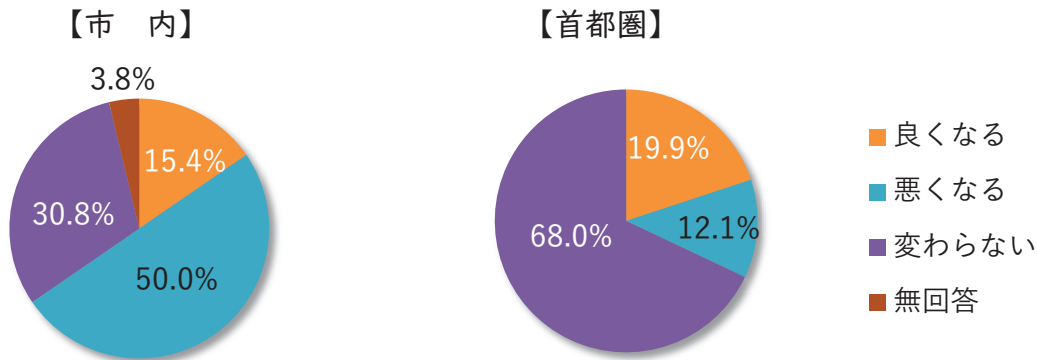
経済的支援の充実が最も多く、次いで、保育園等や遊べる場所の充実などハード面を求める声が多いが、ソフト面のサービスとして妊婦・出産・育児について相談できる場を求める声も多い。



■ 20年後の日立市

20年後の日立市は、今と比べてどうなるとお考えですか。

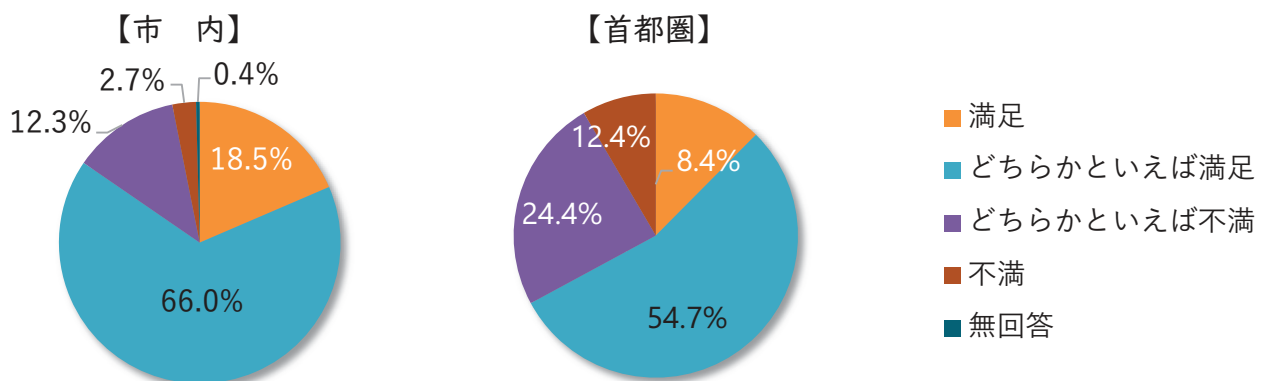
日立市在住者は、20年後の日立市に対し、悪くなるという回答が多く、希望が持てていない人が多い。



■ 現在の暮らしへの満足度

あなたは、現在の暮らしに満足していますか。

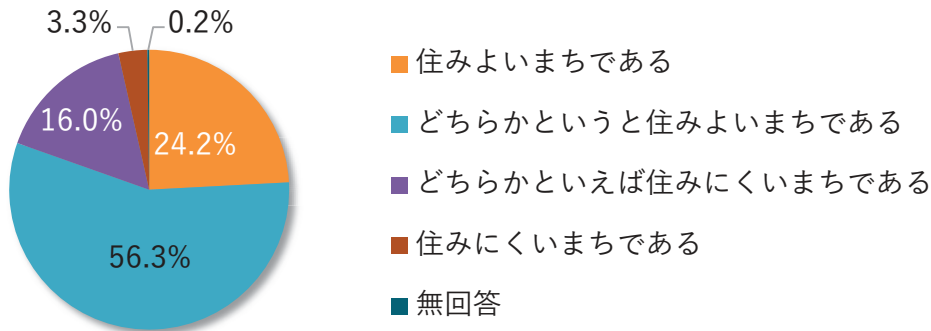
日立市在住者の若者の約8割が現在の暮らしに満足しており、首都圏居住者より満足度が高い。



■ 日立市の住み心地

日立市の住み心地についてどう思いますか。(日立市在住者のみ回答)

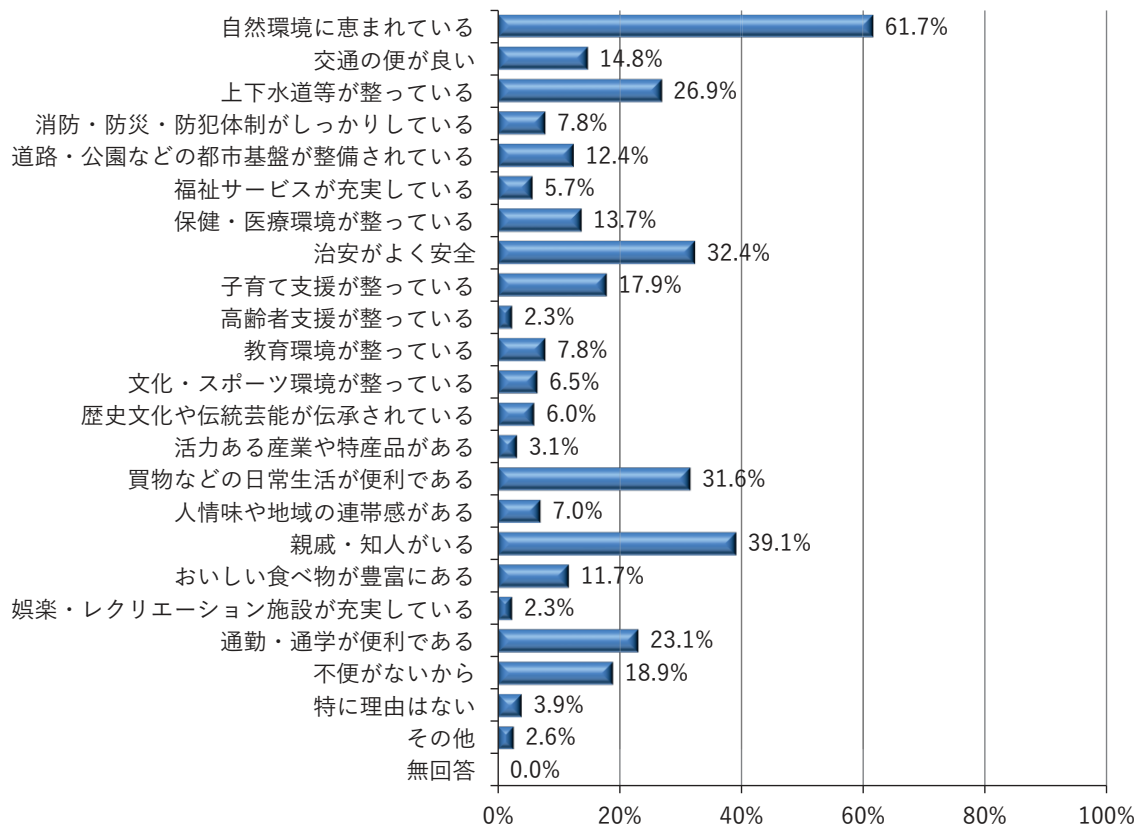
日立市在住者の約8割が「住みよい」と評価している。



■ 住みよいと感じる理由

「住みよいまちである」「どちらかというに住みよいまちである」と回答した理由を教えてください。(日立市在住者のみ回答) (複数回答)

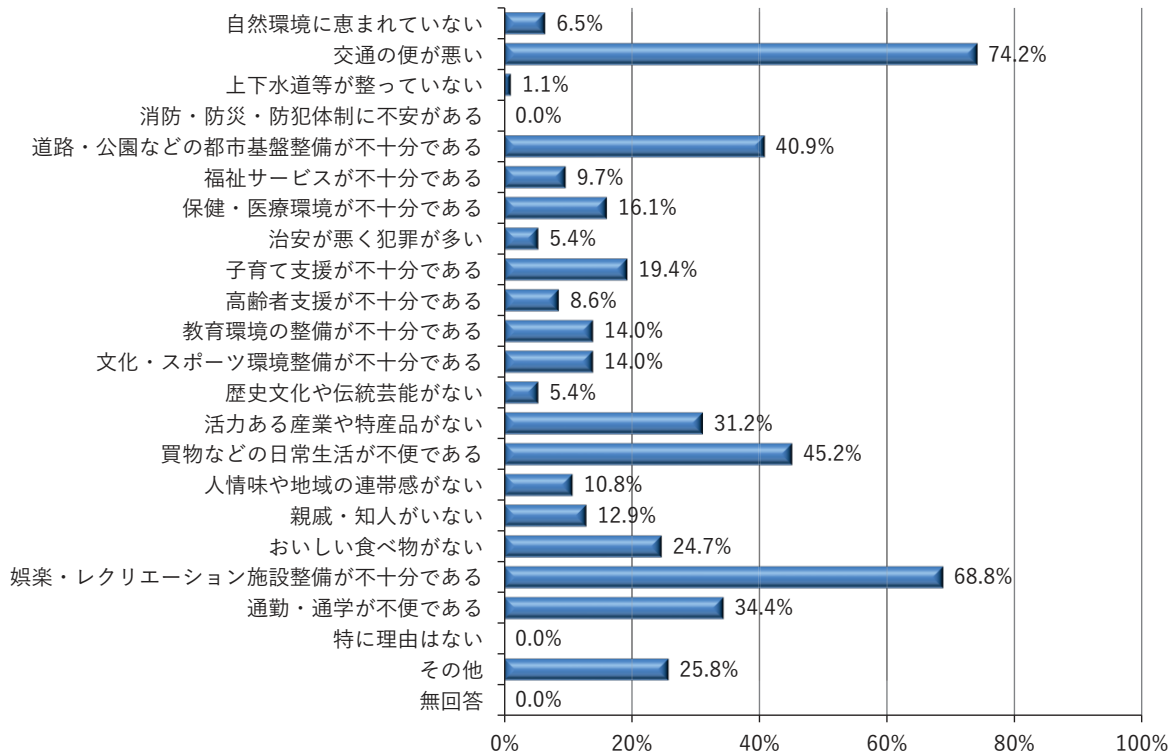
自然環境に恵まれているや、親戚・知人がいることが多いほか、治安がよく安全や、買物などの日常生活が便利など、生活環境に関する理由が多い。



■住みにくいと感じる理由

「どちらかというに住みにくいまちである」「住みにくいまちである」と回答した理由を教えてください。
(日上市在住者のみ回答) (複数回答)

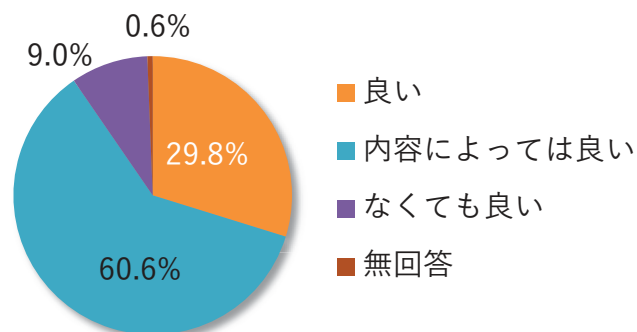
交通の便が悪い、娯楽・レクリエーション施設整備が不十分、買物などの日常生活が不便などの生活環境に関する理由のほか、道路・公園などの都市基盤整備が不十分や、通勤・通学が不便、活力ある産業や特産品がないなど、都市基盤環境や産業に関する理由が多い。



■若者が気軽に集える場所の必要性

日上市内に若者が気軽に集える場所があると良いと思いますか。(日上市在住者のみ回答)

約9割が、日上市内に若者が集える場所があってほしいと期待している。

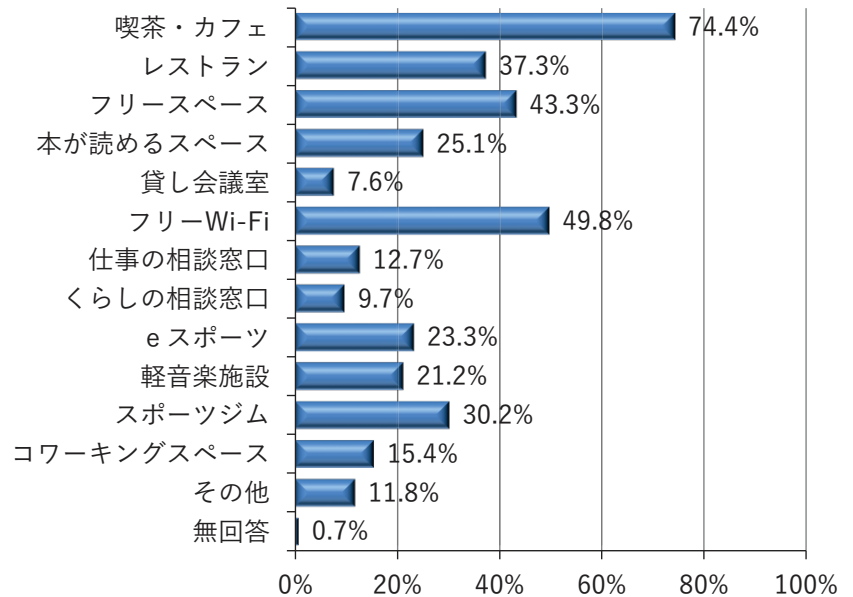


■若者が気軽に集える場所があると良いもの

若者が気軽に集える場所があると良いかの質問に、「良い」「内容によっては良い」と回答した方に伺います。若者が気軽に集える場所があると良いと思うものはなんですか。

(日上市在住者のみ回答) (複数回答)

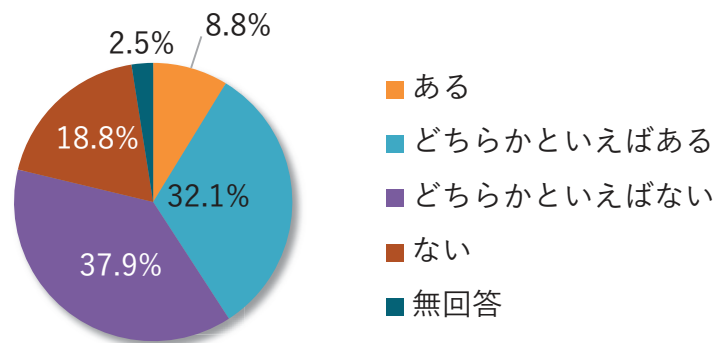
喫茶・カフェ、フリーwi-fi、
フリースペースなどのニーズが
高い。



■市政に対する関心の有無

市政に関心がありますか。(日上市在住者のみ回答)

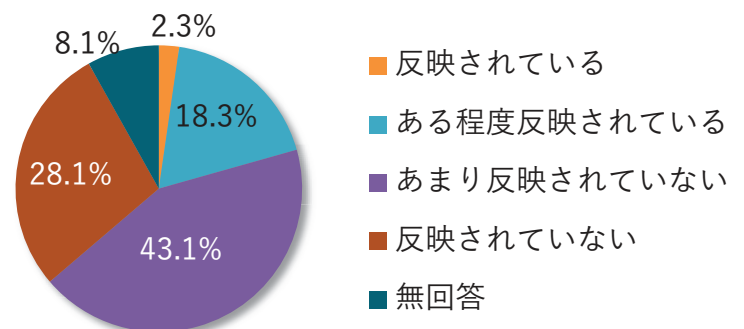
日上市在住者の約6割が市政に関心がない。



■市政に対して若者世代の意見が反映されていると思うか。

市政に対して若者世代の意見が反映されていると思いますか。(日上市在住者のみ回答)

約7割を超える人が、市政に対して若者の
意見が反映されていないと感じている。



■ 日立市のイメージ

日立市のイメージについてどのように感じていますか。

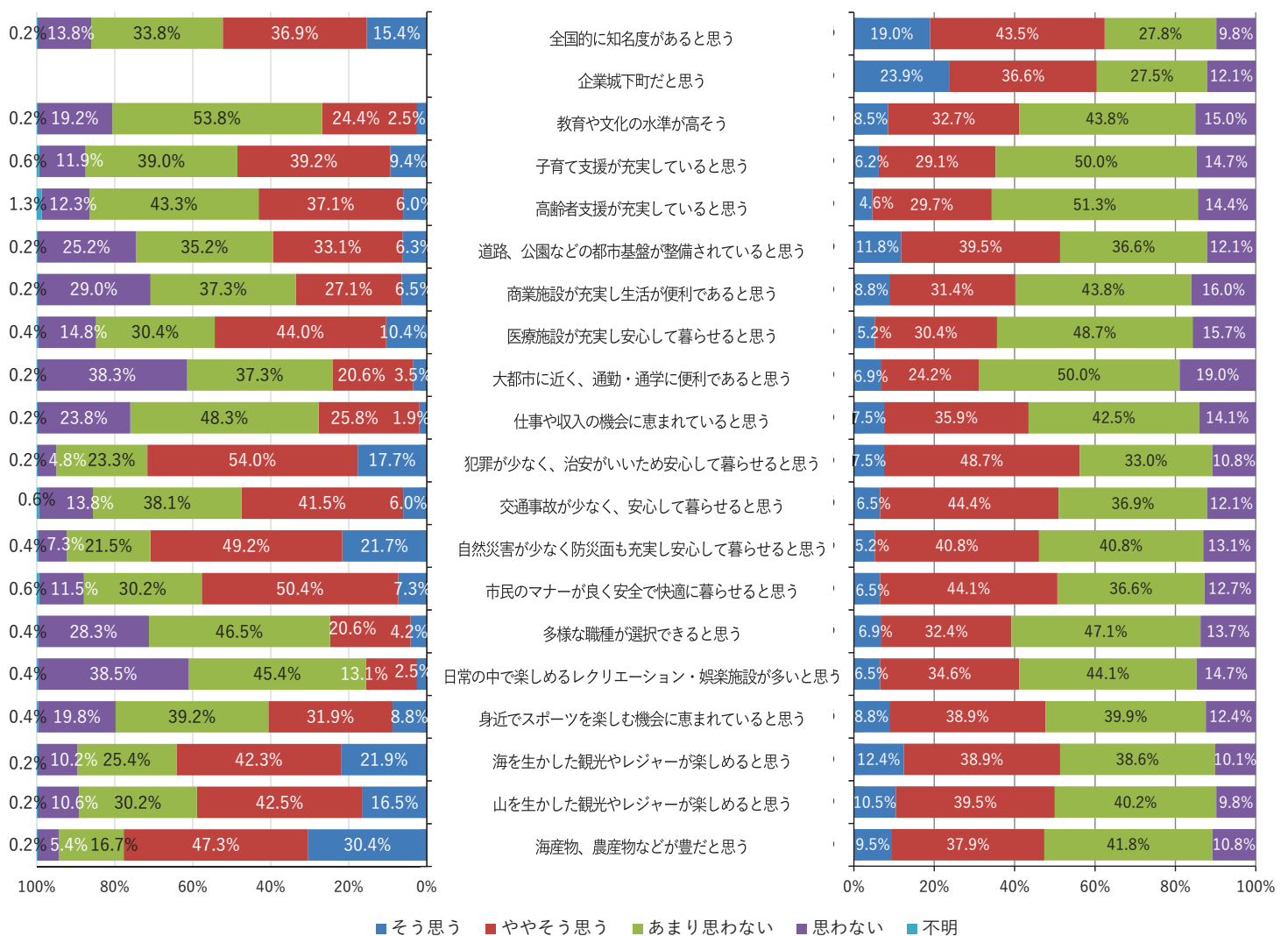
日立市在住者と首都圏居住者では、日立市の全国的な知名度については、ほぼ同様の評価となっている。また、首都圏居住者の半数以上が企業城下町というイメージを持っている。

市内在住者で評価が低いが、首都圏居住者で評価が高いものは、道路、公園などの都市基盤が整備されている、大都市に近く通勤・通学が便利である、仕事や収入の機会に恵まれている、身近でスポーツを楽しむ機会に恵まれているなどである。

市内在住者で評価が高いが、首都圏居住者で評価が低いものは、子育て支援や医療施設の充実度、自然災害の少なさ、海や山の観光・レジャー、海産物や農産物の豊かさなどである。

【市内】

【首都圏】



■大都市圏に住むことと、日立市のような地方都市に住むことのメリット

[日立市在住者への質問]

東京周辺のような大都市圏に住むより、日立市のような地方に住むことのメリットを教えてください。(複数回答)

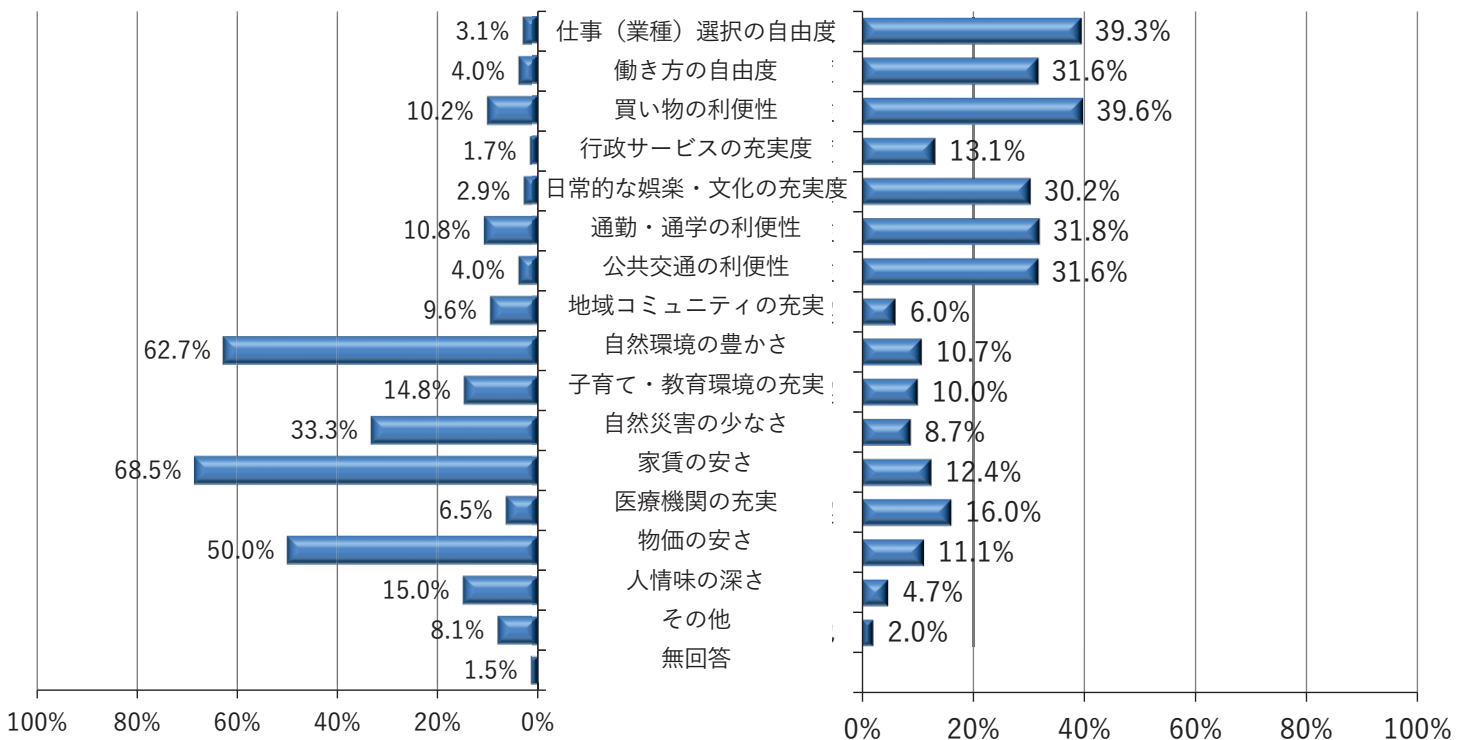
[首都圏居住者への質問]

東京のような大都市に住むことは、日立市のような地方に住むことに比べてどのようなメリットがありますか。(複数回答)

日立市在住者が感じる日立市に住むメリットは、自然環境の豊かさや、家賃の安さ、物価の安さなどの経済的負担に対するものが多い。一方、首都圏居住者が大都市圏に住むメリットは、仕事(業種)選択の自由度、働き方の自由度などのほか、買物の利便性、娯楽・文化の充実度、通勤・通学の利便性、公共交通の利便性、行政サービスの充実度など、日々の生活で自分らしさや、便利さに対するものが多い。

【市 内】

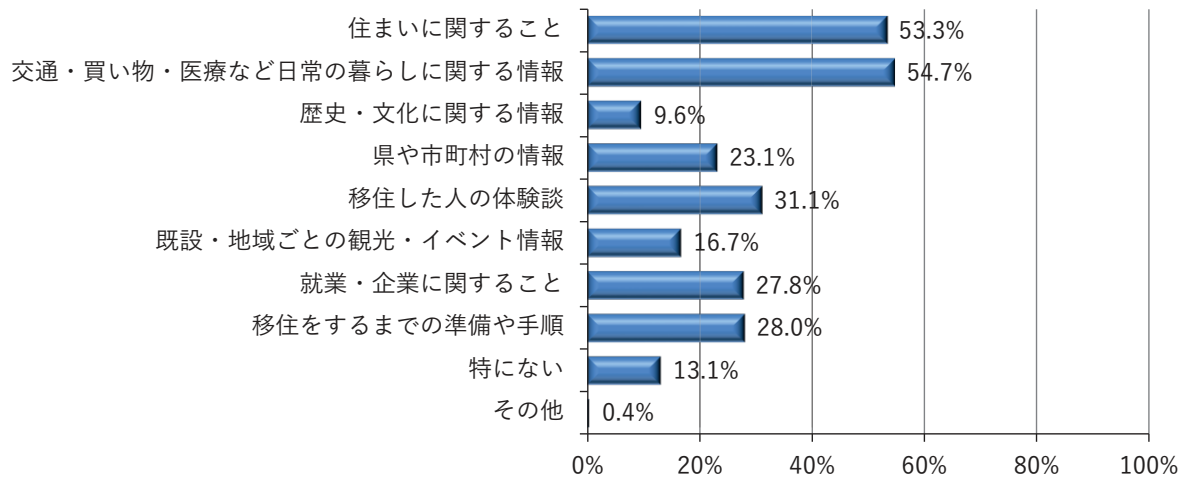
【首都圏】



■移住する場合に必要な情報

あなたが地方に移住することとなった場合、どのような情報があればよいと思いますか。
(首都圏居住者のみ) (複数回答)

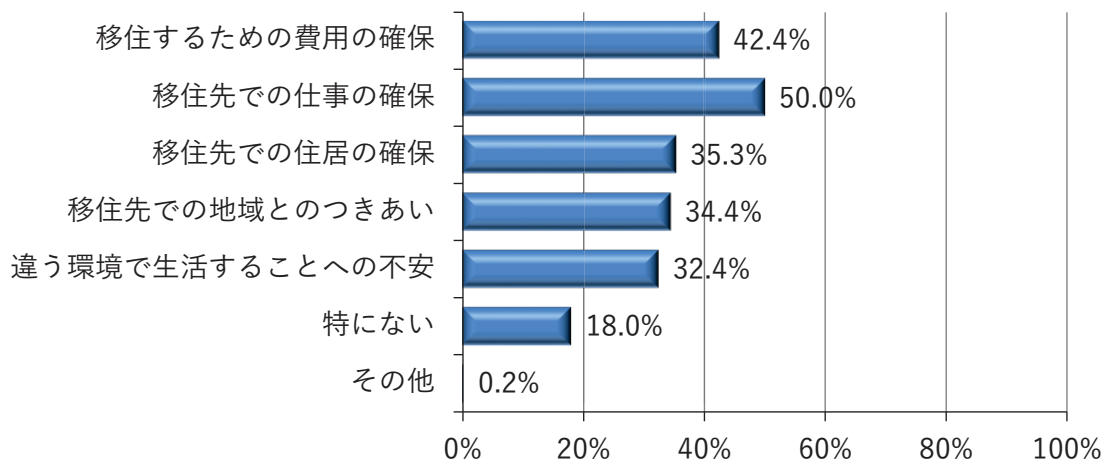
住まいに関することや、交通・買物等日常に関する情報を必要としている。



■移住する場合に不安なこと

あなたが地方に移住することとなった場合、どのような不安を感じますか。
(首都圏居住者のみ) (複数回答)

移住先での仕事の確保と、移住するための費用の確保への不安を感じている。



4 ワークショップからみられる傾向

ひたち若者がかがやくプラン策定委員会で実施されたワークショップからみられる傾向は、以下のとおりです。

20年後、私たちはこうありたい

どこでも働ける環境(時間と場所にしばられない)

世代を超えたネットワークを作りたい

住む場所と働く場所が異なる時代
働く場所に選ばれる

得意を活かせる
選択肢がある

学校以外の学びの場がある

コミュニティに簡単にアクセスでき、社会とつながることができる

不安のない暮らしがしたい

挑戦する若者を応援する

自分が暮らしていくために日立市はどうあって欲しい

時代が変われど変わらない～日立らしさをそのままに～

新しいこと、新しい人を応援する

発信力の強化と分かりやすい情報への

若者が主体的に動ける仕組みづくり

ここに行けば解決する場所づくり

「かがやく」ってどういうこと？

自分史上最高であるとき

人との縁を感じたとき

自分のやりたいことをやっているとき

日立に誇りが持てたとき(シビックプライド)

思いがかなったとき

自分らしく生きること

若者が集まって生まれる賑わいとは？ (こんな賑わいを創りたい)

環境を提供することで、若者が動き出す

若者自身が企画実践する

自分のためにもなり、次につながるイベントの実施



5 現状から見える計画のGOAL

若者

自分らしく生き、
自走に向けて活動する



日立市

若者を理解し、若者が行政にアクセスしやすい仕組みを作る



若者+日立市

日立を若者がかがやくまちにすること

「かがやく」とは？ 自分らしく生きること

第Ⅲ章 若者の課題(若者が必要としていること)

Ⅰ 国が示す若者を取り巻く環境

子ども・若者育成支援推進法(平成21年法律第71号)第8条に基づき内閣府が開催する「子供・若者育成支援推進のための有識者会議」において、令和2年12月にまとめられた「新たな子供・若者育成支援推進大綱の在り方について(報告書)」では、若者を取り巻く状況について、以下のように示されました。

(1) 社会全体の状況(要旨)

■ 生命・安全の確保

15歳から39歳の死因の1位を占め、コロナ禍の影響も懸念される自殺は、極めて重大な問題である。さらに、大人も含め、これまで直接経験したことがない「未曾有」「想定外」「何十年に一度」などと表現されるような激甚災害や感染症が発生するとともに、児童虐待、性被害等の事件、事故が頻発している。このような状況の中で、子供・若者の生命・安全確保の徹底に向けた取組が求められている。

■ SDGs(持続可能な開発目標)の推進

SDGs(持続可能な開発目標)は、17の目標は、未来を生きる子供・若者に深く関係し、子供・若者自身もSDGs推進の担い手として期待されている。SDGsの各目標との関連をより一層意識しながら、子供・若者育成支援施策を推進していくことが求められている。

■ 多様性と包摂性ある社会の形成(ダイバーシティ&インクルージョン(D&I))

人々の意識や興味・関心、生き方・働き方等は多様化するとともに、グローバル化に伴い外国人労働者や外国人留学生、帰国生等も増加している。一方で、「みんなと同じでなくてはならない」という同調圧力は、地域、学校、職域等によらず、我が国社会に根強く存在しており、そのことが生きづらさ、息苦しさを増幅させているとの指摘もある。

個々の違いを認め、尊重しつつ協働していくこと、すなわち多様性と包摂性(ダイバーシティ&インクルージョン)ある社会を目指していくことは、個人の幸せ(well-being)だけでなく、持続可能な社会の実現や、新たな価値の創出による経済発展等の観点からも重要である。

■ デジタル・トランスフォーメーション(DX)の推進

企業、行政等を問わず、デジタル・トランスフォーメーション(DX)が課題となっており、各分野において課題解決にデジタル技術やデータを活用する動きが広がりをみせている。

子供・若者育成支援においても、デジタル技術・データの活用や、アナログとデジタル、オンラインとオフライン、リアルとバーチャルの最適な組み合わせ(ハイブリッド)による業務モデルの変革など、DXを推進し、多様化・複雑化する子供・若者の個々の状況に応じた、きめ細やかな支援の充実等につなげていくことが求められている。

■ 成年年齢の引き下げ等への円滑な対応

2022年(令和4年)に成年年齢が18歳へと引き下げられる。一方で、若者に関する制度的扱いが18歳、19歳、20歳等でそれぞれ異なることとなる中、制度改正によって期待される効果(自立した活動の促進等)を最大限にし、懸念される影響(消費者被害の発生等)を最小限に止められるよう、広報啓発や家庭・学校・地域・職域における教育など、円滑な対応が求められている。

■ 子供・若者の人権・権利の保障

子ども・若者育成支援推進法の施行から10年が経過する中、当該理念の重要性を改めて認識し、家庭・学校・地域・職域等を通じ、子供・若者の人権・権利についての理解を深め、さらにその保障を徹底していくことが求められている。

(2) 子供・若者が過ごす「場」ごとの状況（要旨）

■ 家庭を巡る現状と課題

人にとって家庭は、文字どおり「ホームグラウンド」であり、「ファーストプレイス」である。とりわけ成長途上にある子供・若者にとって、家庭の役割は極めて大きい。家庭は、子供・若者を育くむ基盤であり、父母その他の保護者（以下「父母等」という）は、子育て・教育に第一義的責任を有する。

一方家庭を巡っては、児童虐待、貧困、家族観の変化による影響などの課題が生じており、父母等の個人や家族にのみ子育て・教育の責任を負わせるのではなく、子供・若者が心身ともに健やかに育成されるよう、国及び地方公共団体とともに責任を負うとともに、社会全体、地域全体で父母等や家庭を支えていくことが求められている。

■ 学校を巡る現状と課題

学校は、子供・若者にとって、学びの場であるだけでなく、安心安全な居場所・セーフティネットとなるなど、福祉面でも極めて重要な存在となっている。

一方で、家庭や地域の教育力の低下が指摘される中、学校の負担は年々増大しており、児童生徒の多様化、不登校やいじめ等の問題、教職員の多忙化・不足、学校の減少、情報化への対応等などの課題が生じており、地域等による学校支援を充実させるとともに、地域の子供・若者が集うプラットフォーム（場）としての学校の特性を活かしつつ、子供・若者育成支援を推進していくことが求められている。

■ 地域社会を巡る現状と課題

地域社会は、家庭や学校とは異なる人間関係や様々な体験、居場所の提供等を通じて、子供・若者の健やかな成長に重要な役割を有している。家庭や学校が様々な課題を抱える中、「地域の子供・若者は地域で育てる」との観点から、地域社会に対する期待は大きい。

しかしながら、地域社会も、つながりの希薄化、地域活動の担い手の高齢化・固定化、新たな住民の流入などの課題を抱えており、地域社会と家庭、学校等が互いに互いを理解し、支えあう、持続可能な連携・協働関係（パートナーシップ）の確立等が求められている。

■ 情報通信環境を巡る現状と課題

急速なスマートフォンの普及、新たなコンテンツ・サービスの出現、教育の情報化等に伴い、子供・若者が過ごす「場」としての情報通信環境（インターネット空間）の存在感は格段に大きくなっている。

教育や行政、医療など、あらゆる分野でデジタル化が加速する中、インターネット利用の利点を拡大し、弊害を縮小していくことが求められている。

■ 就業を巡る現状と課題

若者の就業を巡っては、近年、失業率や平均賃金等の指標が改善傾向にあったものの、コロナ禍による悪化が懸念されている。

さらに、若年無業者の増加、起業意識等の低さ、求められる能力の高度化、外国人労働者等の増加、テレワーク等の普及といった課題が生じており、若者が安心・納得して働き、その意欲や能力を存分に発揮していけるよう、困難な状態にある若者の自立や社会参加に向けた支援を含め、総合的な取組の推進が求められている。

2 日立市の上位計画・関連計画での若者応援の視点

(1) 日立市総合計画での視点

ア 前期基本計画

日立市総合計画（前期基本計画）においては、社会の潮流や本市が抱える課題に対応していくため、「暮らしを明日につなぐプラン」を示し、この中で「若者応援」という視点を示しました。

本市では、近隣自治体への転出や出生率の低下により、人口の減少が続いています。特に、本市の人口減少の特徴である若年層の市外流出を抑え、労働力人口を確保し、将来に向けてまちづくりを担う優秀な人材を育てていくことは大変重要です。このため、就業や居住、子育て等の環境を整え、次の世代を担う若者が暮らしやすいまちを目指します。

主な取り組みとして、産科の充実や子育て情報の提供など、若い世代の人々が本市の中で子どもを生み育てやすい環境を整備するとともに、行政、地域、各種団体等が連携して子育てを支援し、子どもを健やかに育てられる環境を整備します。

また、国際社会で活躍する力の育成や科学技術への関心を高める教育など、本市の特色ある教育を充実し、たくましく未来を切り拓いていく力を備えた人材を育成します。

さらに、企業誘致の推進や成長産業等への事業展開を促進し、市内での就業機会の創出に努めるとともに、既存の市営住宅や民間住宅の活用により住環境の充実を図り、若年層が定住しやすい環境整備を進めます。
〔前期基本計画 P39 から抜粋〕

イ 後期基本計画

日立市総合計画（後期基本計画）においては、人口減少問題対策や地域活性化など、本市が直面する新たな課題の克服を目指すため、「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標等も踏まえながら、新たな重点プロジェクトを設定し、「若者・子育て世代応援」を示しました。

多くの若者が日立市に興味を持ち、「行ってみたい、住んでみたい、そして住み続けたい！」と思ってもらえるまちづくり。これは、日立市の地域創生の大きなテーマの一つです。

日立市で学び、働き、生活する全ての若者が、生き生きと暮らし、楽しく子育てができるよう、地域・企業・各種団体と連携し、市を挙げて「出会いから結婚、妊娠・出産、子育てまでの切れ目のない支援」を行います。

今後の重点的な取組として、「子育て分野」と「教育分野」のそれぞれについて、更なる充実を図り、「若者・子育て世代に選ばれるまち」の実現を目指します。

子育て分野については、安心して子どもを産み育てられる環境を整えるため、引き続き、周産期母子医療体制の確保に向けた支援を行うほか、子育て世帯の負担軽減のため、現在、中学生までを対象としている小児医療福祉費制度（マル福）の拡大を検討するなど、各種子育て支援制度の一層の充実を図ります。

また、「子育て世代包括支援センター」を設置し、既存の「子どもセンター」等と連携を図りながら、妊娠期から子育て期にわたるまでの総合的な相談支援を提供するとともに、子育て世代が安心して働ける環境づくりを進めるため、保護者のニーズに対応した、認定こども園等の施設整備を進めます。

教育分野については、かけがえのない宝である子どもたちが、夢や希望、目標を持ち、その実現を図ることができるよう、教育環境を充実させるとともに、国際社会で活躍できる力を育む教育や、科学技術への関心を高める教育、環境への意識を高める教育など、「日立市ならではの」の特色ある教育を充実させ、たくましく未来を切り拓いていく人材を育成します。

また、今後の児童生徒の減少を踏まえ、国・県における小中学校適正配置の基準や考え方等を参考に、更なる教育環境の充実を図るため、学校の適正配置の検討を進めます。

〔後期基本計画 P38 から抜粋〕

(2) 日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略

ア 平成27年12月に策定した「日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、「新婚世帯や子育て世代など、若者を対象とした、転入・定住の促進」、「出生率の回復を促し、子育て世代の定住を図るため、福祉、医療、教育などの分野における切れ目のない支援による、出産や子育てのしやすい環境づくり」を目指してきました。

イ 令和2年3月に策定した「第2期日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略」においては、結婚・出産・子育ての希望をかなえるため、「出会いから結婚、妊娠、出産、子育てまでの「切れ目」のない支援」、「子育て世代が働きながら子育てしやすい環境づくり」、「特色ある教育環境の提供」といった基本的方向を示しました。

3 日立市における若者の課題

□アンケート調査：AN □ワークショップ：WS
□グループインタビュー：GI □パブリックコメント：P

今の生活に満足しているが、将来に対して漠然とした確かな不安がある

日立市の若者の現状

- 現在の暮らしに満足しているが、経済的な不安や仕事への不安を抱えている。[AN]
- 将来の暮らしについて、首都圏若者よりも良くなるという回答が少ない。[AN]
- 20年後の日立市の状況について、半数が悪くなると思っている。[AN]
- 進学希望や職種を考え、市外に転出する若者が多い。[GI]
- 18歳になってから、日立市のこと、将来のことを考え始めるのでは遅い。[WS][GI]

現状からの課題

- 若者の不安を受け止められる場面・場所が必要である。
- 小・中・高校生から将来を考える機会が必要である。

日立市での暮らしの中で、若者が挑戦できる機会がない

日立市の若者の現状

- 自分たちで企画・実践する機会を求めている。[WS]
- 市内若者・首都圏若者ともに、正社員として就職し定年まで同じ職場で働くことを求めている。[AN]
- 転職しキャリアやスキルアップを図ることを求める若者は首都圏より少ない。[AN]
- 市内では仕事（職種）の選択肢が少ないことへの指摘がある。[AN][GI]

現状からの課題

- 今の暮らしに満足しているものの、暮らしの中で、挑戦や高揚感、期待感を得られる環境が必要である。
- 自分にとって心地よいライフスタイルを確立するための知識を得る機会が求められている。
- 若者が求める支援の情報発信と、気軽に相談できる窓口が必要である。

若者世代の意見を受け止める環境がない

日立市の若者の現状

- 約6割が市政に関心がない。[AN]
- 約7割が、自分たちの意見が反映されていないと感じている。[AN]
- 市役所に行く機会は少ないが、必要があって市役所に行くと、窓口がわかりづらい。若者が行きやすい窓口を求めている。[GI]
- 行政手続きや意見を吸い上げる手法として、SNSの活用を求めている。[AN][GI]

現状からの課題

- 若者が意見を行政に伝え、行政は受け止めることが必要である。
- 若者が若者に、そして行政に気軽に相談できる環境が必要である。
- 若者世代が行政に関われる仕組みが必要である。

若者が気軽に集える場所がない

日立市の若者の現状

- 市内には若者が集まる場所がないと感じている。〔G I〕〔P C〕
- 約9割が、市内に若者が気軽に集える場所を求めている。〔A N〕
- 気軽に集える場所の位置は、駅周辺への希望が多い。〔A N〕
- 場所には、カフェ・喫茶店、フリーWi-Fi、フリースペースなどを求めている〔A N〕
- 晴耕雨読は、若年起業家のネットワークの拠点になっている。〔G I〕

現状からの課題

- 若者が集える場所の整備が必要である。
- 若者同士が交流でき、共感しあえる環境が必要である。

日立のことを知りたいけれど、情報にアクセスできない

日立市の若者の現状

- 日立市は様々な施策を行っており、情報発信もしているはずだが、その情報を見つけられない。〔W S〕
- 日立市の魅力が、市外の若者だけでなく市内の若者にも伝わっていない。〔A N〕〔G I〕
- 日立市の魅力を学ぶ・体験する機会の充実が必要である。〔W S〕〔G I〕
- 日立市の公式SNSは、SNSの良さを活用できていない。〔G I〕

現状からの課題

- 埋もれてしまわない情報発信手段として、SNSをより効果的に活用する必要がある。
- 若者が関心を持てるコンテンツの発信が重要である。
- 市外に発信する情報は、若者がアクセスしやすくすることが重要である。

若者はつながりを求めているが、つながれない

日立市の若者の現状

- 約5割が未婚で、その理由は、結婚しても良いと思える相手に出会っていないが最も多い。〔A N〕
- 子育て中でも、社会とのつながりを持ち続けることで、子育てにも良い影響を与えることができる。〔W S〕
- 様々なコミュニティ(地域コミュニティ含む。)とのつながりや、支え合える関係になることを求めている。〔W S〕〔G I〕
- 若者だけでなく、多世代が交流できる場があるといい。〔G I〕〔P C〕

現状からの課題

- 地域コミュニティを含めた、多様なコミュニティと若者をつなぐ仕組みづくりが必要である。
- 若者同士が出会い・交流できる環境が必要である。
- 多世代交流により、人と人とのつながりが生まれる環境が必要である。

日立市の若者の現状

- 約8割が日立市を住みよいまちと感じている。
〔AN〕
- 交通の便が悪いこと、商業施設や娯楽施設の魅力が少ないことなどから住みにくいと感じている。〔AN〕〔PC〕
- 子育て支援として、保育園や遊べる場所などのハード面を求める声が多いが、一方でソフト面のサービスとして妊婦・出産・育児について相談できる環境を求める声も多い。
〔AN〕
- 就労に満足していない理由として、収入(給料)が少ない、休めない・残業が多い、やりがいを感じない、を挙げている人が多い。〔AN〕
- 就労への不満がある一方で、定年まで同じ職場で働くことを求めており、転職を希望する人が少ない。〔AN〕
- 首都圏若者が移住する場合、住まいに関することや、交通・買物等日常に関する情報を必要としている。〔AN〕
- 移住する場合、移住先での仕事と移住するためにかかる費用の確保への不安を感じている。
〔AN〕
- 海や山などの自然環境の魅力や、その環境の中で暮らすことの良さが伝わっていない。
〔GI〕〔PC〕

現状からの課題

- 職業や生き方の選択ができ、成長できる機会を提供することが必要である。
- 日立市で活動する若者の暮らしぶりやロールモデルを発信する必要がある。
- 日立で暮らすことの魅力を発信していくことが必要である。

第IV章 基本理念・基本方針

1 日立市における若者応援の意義

少子高齢化や若者人口の流出が、市政においての大きな課題である中で、「ひたち若者ががやきプラン」は、日立市総合計画、日立市まち・ひと・しごと創生総合戦略における若者応援という重要なテーマを具現化するとともに、日立市の未来を見据えた新たなチャレンジとしての方向を示すものです。

これまでも日立市では、子育て支援の充実、マイクロクリエーションオフィス「晴耕雨読」などの開設を始め、多くの若者応援に取り組み、若者の希望を実現するためのアクションを起こしてきたことにより、若者と行政の新たなまちづくりの萌芽が生まれています。

また、本計画を策定するために行った意識調査や委員会の議論を通じて、若者の現状や課題が明確になり、計画の実現に向けた体制づくりの機運が整いつつあるなど、萌芽をさらに強くし、持続的で発展性のあるつながりに育てていくチャンスも到来しています。

本計画の策定により、若者がこれまで以上に生き生きと、仕事や子育て、地域での暮らしに向き合うことができる環境づくりなどの若者応援を、日立市が一層積極的に取り組み、明るい未来に向かってチェンジしていくスタートとするものです。

2 基本理念

若者世代が、本来持っている力を存分に発揮でき、生きがいを持ってかがやき、日立市に住んでみたい、住み続けたいと思えるまちを目指します。

目指すべき方向に進んでいくためには、若者世代が自らの意思で参加・参画できる環境や仕組みを整えることと、踏み出すための一步を行政等が支援できる体制づくり、さらには、多世代や多様なコミュニティとのつながりが必要です。

それらを推進するための基本理念として、次の3つを掲げ、各種施策や取組を進めていきます。

挑戦と成長を支援する

日立の誇りと歴史を創る

失敗を笑わない

3 基本方針

基本理念を実現するため、次の5つの基本方針を掲げ、施策を展開していきます。

■ 基本方針1 若者が挑戦できる環境づくり

若者が社会をつくる一員、日立市の担い手としての意識を育む取組の充実や、若者同士はもちろん、経験や知見を持つ多世代や各種コミュニティとの交流機会・ネットワークの創出を図り、若者のアイデアによるまちの魅力づくりやイベント等の実践を通して、若者が様々な挑戦に向けて力を注ぎ、活躍できる環境づくりを推進します。

■ 基本方針2 若者が集まる場づくり

若者が気軽に集える場所の整備を行い、若者世代の活動交流拠点として、若者自身が運営できる仕組みづくりを行います。そして、この場所が様々な世代の人が行き交い、新しい出合いやつながりが生まれ、来るたびに新しい発見がありワクワクさせてくれる日立の新たな魅力を伝える育ちの場となることを目指します。

■ 基本方針3 若者が成長できる環境づくり

従来とは異なる生き方、働き方がある環境の中で、シビックプライドの醸成や、温かい未来のための学び、「ひたちらしさ」を駆使した多極的な取組を充実させ、全ての若者が自分の暮らしを選択できるための力を養い、成長を促す取組を推進します。

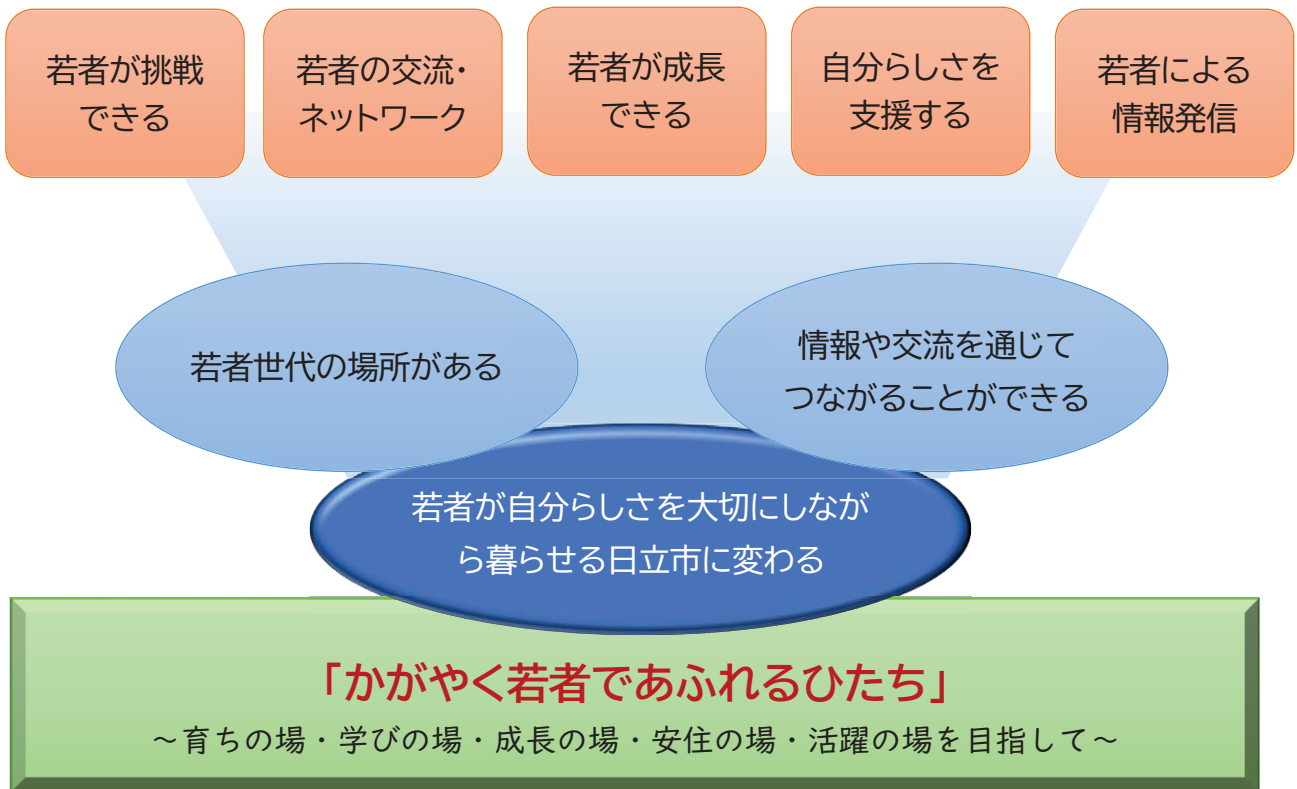
■ 基本方針4 自分らしさを支援する仕組みづくり

生きづらさを抱えた若者に対する支援や、多様な生き方への理解促進に向けた取組に努めるとともに、生活場面でのライフステージに応じた支援について分かりやすい発信に努めます。

■ 基本方針5 若者による情報発信の推進

若者の日常のスピード感、ノウハウなどをいかし、若者が主体となり情報を発信できる仕組みづくりを推進します。

4 目指すべき姿



「かがやく若者であふれるひたち」は、挑戦を恐れず、自分らしく生き生きと暮らすことができる環境に若者が集まることで、にぎわいが生まれ活気に満ちあふれたまちになることを表しています。

このまちでの暮らしが、育ちの場、学びの場、成長の場、そして何よりも安住、活躍の場となることを見守り、支えていきます。

5 「かがやく」とは

「自分らしく生きること」

「かがやく」とは、特別なことを実現している人を指すだけでなく、やりたいことをやっているとき、思いがかなったとき、地元を誇りを持ってたとき、自分史上最高であるとき、人との縁を感じたときなど、自分らしく生きることをいいます。

第V章 施策体系

基本方針

基本施策

期待する変化

<p>1</p> <p>若者が挑戦できる環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①若者のアイデアを実践できる組織づくり ②若者世代の不安を解消できる仕組みづくり ③若者と行政の連携・交流促進 ④若者実践による出会い・発見・にぎわい創出 ⑤各種コミュニティとの連携(地域形成支援) 	<p>「日立のまちを舞台」に活動してみよう</p>
<p>2</p> <p>若者が集まる場づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①若者が気軽に集える場所づくり ②若者によるコミュニティづくり 	<p>若者が集まり「若者の視点」で活動すること</p>
<p>3</p> <p>若者が成長できる環境づくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①キャリア形成・生きる力を養う ②ひたらしさと若者の融合 ③働き方や暮らし方の多様性への対応 	<p>「日立への親しみ」を育みながら</p>
<p>4</p> <p>自分らしさを支援する仕組みづくり</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①生きづらさを抱えた若者の支援 ②ライフステージサポートの仕組みづくり 	<p>「自分らしさ」を大切にしながら</p>
<p>5</p> <p>若者による情報発信の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ①若者が関心を持つ情報発信の仕組みづくり ②日立市に根付いた若者活動の発信 	<p>そんな「愉しさ」を共有しよう</p>

第VI章 個別施策

基本方針Ⅰ 若者が挑戦できる環境づくり

基本施策① 若者のアイデアを実践できる組織づくり

若者が主体となり、まちづくりや地域課題解決、関係人口創出等に対する取組を若者の自由なアイデアで実践できる組織をつくります。活動を通じ、日立市への愛着や、自らの力で地域を作り上げる想いを育てます。

具体的な施策	主な取組
(仮称)ひたち若者かがやき会議事業【女性若者支援課】 若者世代のアイデアにより、実践できる組織「(仮称)ひたち若者かがやき会議」を設立する。活動を通じ、日立市への愛着や自らの力で地域を作り上げる想いを育てる。設立後は、自立化に向け支援する。	■ (仮称)ひたち若者かがやき会議の設立・運営・自立化

基本施策② 若者世代の不安を解消できる仕組みづくり

就業や移住・定住、子育てなど、若者は様々な悩みを抱えており、行政担当者にアクセスしたいが、分野別に分けられているなどアクセスしづらい状況にあります。若者世代が気軽に訪ねることができ、求める情報にアクセスできる仕組みづくりを行います。

具体的な施策	主な取組
(仮称)若者ワンストップカウンター設置【女性若者支援課】 若者の相談や問合せを一括して受け付ける若者のための窓口を設置する。	■ (仮称)若者支援ワンストップカウンターの設置
(仮称)若者コンシェルジュ等育成【女性若者支援課】 若者の相談や各種行政施策への案内、若者同士の交流機会創出など、若者の窓口となる人材を育成し若者支援ワンストップカウンターに配置する。 また、自身の経験や技術などを生かして、若者の活動を応援する市民を募集し、挑戦する若者へのアドバイスを行うサポーターを配置する。	■ (仮称)若者支援コンシェルジュの育成プログラム整備及び配置 ■ 若者サポーターの募集・配置

基本施策③**若者と行政の連携・交流促進**

若者は、現在の市政が「自分たちに向いている」とは感じておらず、市政への関心が薄いのが現状です。一方で、行政は若者の意見やニーズを把握する必要性を感じています。行政と若者の接点を増やし、若者の意向を把握できる機会の創出と、主体的に活動する若者を行政が支援できる仕組みづくりを行います。

具体的な施策	主な取組
(仮称)若者&行政カウンスル設置【人事課】【女性若者支援課】 若者の組織である(仮称)ひたち若者かがやき会議を中心とした若者と若手市職員等が、政策課題について意見交換や情報共有する場を創設し、継続的な活動のための支援を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ■ (仮称)若者&行政カウンスルの設立 ■ 若者と行政の共同研修会の実施
若者人材バンク窓口【女性若者支援課】 若者の視点を行政に取り入れることで、新たな発想が生まれることを期待し、(仮称)ひたち若者かがやき会議のメンバー等が行政に協力できる仕組みをつくる。若者にとっては、スキルアップや行政の情報を知り、意見を伝えるきっかけとする。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者の視点・思考活用プロジェクト

基本施策④**若者実践による出会い・発見・にぎわい創出**

若者世代が主体となり、若者の自由な創造性を反映させたイベントを開催し、出会いや交流の機会、さらには、まちのにぎわい創出となる仕組みづくりを行います。

具体的な施策	主な取組
出会い交流応援【女性若者支援課】 若者の組織である(仮称)ひたち若者かがやき会議が主体となり、若者の自由な創造性を反映させたイベントを開催し、出会いや交流機会、まちのにぎわい創出を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ■ 恋活応援の実施 ■ にぎわい創出イベントの拡充 ■ じぶんみがき講座の開催

基本施策⑤

各種コミュニティとの連携(地域形成支援)

若者は、地域コミュニティを含めた多様なコミュニティとのつながりを求めているが、つながれない現状があることから、つながりやすい仕組みづくりを推進します。

具体的な施策	主な取組
<p>各種コミュニティへの若者参画促進【関係課所】</p> <p>各種コミュニティと若者の接点をつくるため、様々なイベントへの参画機会を創出するとともに、相互の情報共有を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 各種コミュニティとの連携 ■ 各種コミュニティへの参画機会創出 例) さくらまつり、産業祭等への参画
<p>地域コミュニティへの若者参画促進【コミュニティ推進課】</p> <p>若者が地域とのつながりを持つため、本市の特徴である地域コミュニティへの参画機会を創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域コミュニティへの参画機会創出 例) 地域コミュニティ事業へ参画し、地域コミュの歴史や関わり方を学ぶ。
<p>大学連携推進事業【政策企画課】</p> <p>若者の組織である(仮称)ひたち若者かがやき会議と連携大学が情報交換を密にし、地域課題や関係人口創出などのプロジェクトに取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ (仮称)ひたち若者かがやき会議と連携協定大学の連携 ■ 学生プロジェクト成果の情報共有

基本施策① 若者が気軽に集える場所づくり

若者の交流やネットワークづくりを支援するとともに、まちなかに活気とにぎわいが生まれ、気軽に集い交流できる場所を整備します。

具体的な施策	主な取組
<p>若者の場所づくり【女性若者支援課】【都市政策課】【商工振興課】</p> <p>若者が行ってみたいと思うようなワクワクするコンテンツを取り入れた場所を整備する。そして、この場所が新しい出会いにつながる場となるよう、場所を活用したイベント等を実施する。</p> <p>整備した場所は、若者自身が管理し、継続的な運営ができる仕組みを作る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者の場所の整備 例) (仮称) 若者交流カフェの整備 ■ 求められるツールの導入検討 例) フリーwi-fi、ミーティングスペース、飲食、小商い、娯楽要素等 ■ 若者活動拠点の仕組みづくり ■ 交流の場の創出 ■ 若者定住促進機会の創出

基本施策② 若者によるコミュニティづくり

若者だけでなく、まちの人々やまちの企業など、多世代交流も実現させ、人と人とのつながりを生み出すことができる場をつくります。

また、気軽に集える交流拠点「(仮称) 若者交流カフェ」を活用した若者自身による事業展開を行い、若者同士の交流やまちのにぎわい創出につなげます。

具体的な施策	主な取組
<p>コミュニティづくり【コミュニティ推進課】【商工振興課】 【関係課所】</p> <p>若者だけでなく、まちの方々にとっては、若者の活動を知り関わる接点となり、世代間を超えた交流の場とする。</p> <p>また、商店街やまちの企業と学生等をつなぐ橋渡しの役割や、若者の起業やビジネス交流が生まれる場とする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちや地域の人々との交流の場の創出 ■ 企業・学生・若者をつなぐ場の創出 ■ 起業・創業に向けた交流機会の創出

基本施策①

キャリア形成・生きる力を養う

どんな大人になりたいのか、自分が何をしたいのかなど、自分を知る機会を創出し、中・高校生の学校以外での学びの場をつくります。また、子どもたちの未来が温かい人間関係で満たされ、一人一人の個性が尊重できる社会に近づくための取組を推進します。

具体的な施策	主な取組
<p>日立の魅力体感【文化・国際課】【生涯学習課】 中学校、高等学校での学び以外に「日立を知る」「日立を体験する」機会の創出を図る。 また、日立市の豊かな自然を体感することで、日立への愛着心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日立市で働くこと、暮らすことの体験プログラム開発 ■ 職業探検少年団、文化少年団との連携 例) ひたちの魅力体感ツアー
<p>シビックプライドの醸成【生涯学習課】【指導課】 遊びや体験を通じて、日立市の歴史や文化を学ぶ機会の創出を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 楽しく日立を学ぶアイテムの開発 in 学校・交流センター 例) 日立人生ゲームの開発 ■ ひたち大好き博士事業 ■ 確かな学力育成事業
<p>自分らしいライフプランへの支援【文化・国際課】【男女共同参画推進室】【健康づくり推進課】【生涯学習課】【指導課】 多文化共生やジェンダー平等など、多様性への理解を深めるとともに、これから就職や結婚など、大きな人生の転換期を迎える若者世代を対象に、自分らしいライフプランを考える機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自分自身の将来を考える機会の提供 例) 小・中・高校生向けロールモデルセミナー 例) ライフプランづくりセミナー 例) 女性人材育成事業 ■ 外国人への通訳支援
<p>ジェンダー平等の推進【男女共同参画推進室】【健康づくり推進課】【指導課】 小学校高学年から中学生にかけて、ジェンダー平等の視点を入れた家族のあり方・子育てについての出前授業を行う。 また、若者世代に対しては、子育ての知識・技術の習得を通し、一人一人がジェンダー平等に取り組むきっかけを支援する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェンダー平等等を考える機会の提供 例) 大学生・社会人・子育て世代等へのロールモデル出前授業 ■ 男女共同参画推進事業との連携 例) LGBT や性の多様性の理解を深める講座の実施 ■ 子育て知識・技術の習得事業の充実 例) プレパパ・プレママ子育てスクールの充実

基本施策②

ひたちらしさと若者の融合

多くの企業が立地している基盤をいかし、市内企業や行政の課題に対し、若者が挑戦できる仕組みづくりに努めるとともに、行政と連携した仕組みづくりを推進します。

具体的な施策	主な取組
<p>企業活動支援【商工振興課】 様々な技術や人材を有している企業が、市場の情報技術を活用しきれていない企業等に対し、必要とするスキルを持つ若者をマッチングし、商品開発や販路拡大を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 企業が求めるスキルと若者が持つスキルのデータベース化とマッチング支援 ■ 地域就労支援強化事業 ■ 地域雇用創出支援事業
<p>若者=企業マッチング【商工振興課】 ものづくりのまちとして、市内企業の事業分野や必要とする人材について、若者に向けた情報発信を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人材募集市内企業のデータベース作成 ■ (仮称)若者交流カフェでの企業情報の発信 ■ 地域就労支援強化事業(再掲) ■ 地域雇用創出支援事業(再掲)
<p>移住促進情報発信【地域創生推進課】【シティープロモーション推進課】【商工振興課】 移住者増加を目指し、住まいや移住、子育てに係る経費補助制度などを含めた様々な情報を広く周知する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ (仮称)若者支援ワンストップカウンターでの起業・創業、就職等の情報発信強化 ■ 多様な媒体を活用した発信強化 ■ 移住促進事業の拡充 例)移住ポータルサイトを開設し、移住に関する情報を一元的に発信 例)移住コンシェルジュを設置し、県などが主催する移住相談会で移住相談及びPRを実施
<p>ひたちの海・山活用【観光振興課】 日立市の魅力として認識されている海・山を活用したエンターテインメントを創出する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日立市の地域遺産(自然)をいかした、若者との連携事業構築 ■ 中里地区、中山間地域の活性化への連携 例)観光案内、カフェ運営等

基本施策③

働き方や暮らし方の多様性への対応

自分らしい働き方を求める若者が増加しており、従来とは異なる働き方へと変化していることから、まちの資源をいかしながら、若者が成長できる環境づくりに努めます。

具体的な施策	主な取組
<p>おしごと資産活用【商工振興課】 若者の起業・創業の場として、空き店舗や空き工場などを活用できる情報収集を行い、マッチング機能を強化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 空き店舗、空き工場のデータベース化 ■ 不動産所有者と使いたい若者をつなぐ窓口の創出
<p>若者チャレンジ支援【女性若者支援課】【商工振興課】 起業・創業へのハードルを低くするため、セミナー等の充実や、キャリアアップと就業機会拡大を応援するための支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 起業・創業セミナーの開催 ■ 若者向け起業・創業ガイドライン作成 ■ 若者資格取得補助事業 ■ 女性の就業専門資格取得等補助事業 ■ 創業支援ネットワークとの連携
<p>働きやすい環境づくり支援【商工振興課】 年齢や性別、子育て中であるかなどを問わず、様々な働きやすい環境を整備し、働く方にとって魅力ある職場とするための支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 働きやすい環境づくり支援事業（ユニバーサルデザイン整備への補助） ■ 働き方改革推進モデル企業奨励金交付事業（働き方推進を認められた企業等への奨励金交付）
<p>育児休暇等を取りやすく【人事課】【男女共同参画推進室】 【健康づくり推進課】【商工振興課】 育児休暇等取得への理解促進を図る。育児休暇については、性別にこだわらず取得できる環境づくりへの理解促進や、適切な育児に関する情報を得る機会を提供する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 休暇取得への理解促進啓発 ■ 子育て知識・技術の習得事業の充実（再掲） 例）プレパパ・プレママ子育てスクールの充実 ■ 男性育児休暇取得促進 例）日立市役所男性職員の育児休暇取得の推進
<p>多様な働き方への整備【商工振興課】 テレワークやスモールビジネスを支援するため、コワーキングスペースを整備する。 また、マイクロクリエイションオフィスに入居して新たに創業する方等を対象に事務所整備に係る支援を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ （仮称）若者交流カフェへのコワーキングスペース等設置 ■ 街なかマイクロクリエイションオフィス入居者支援補助
<p>Wi-Fi つながるまち【関係課所】 住む場所と働く場が異なる時代となる中で、日立が働く場に選ばれるためのきっかけを作るため、フリーWi-Fi がつながるまちを目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 公共施設へのフリーWi-Fi 整備

基本方針4 自分らしさを支援する仕組みづくり

基本施策① 生きづらさを抱えた若者の支援

多様な生き方がある中で、障害や貧困、LGBT、子育てなど、様々な生きづらさや悩みを抱えた若者に対する偏見と誤解を取り除き、支援の必要性や共に生きるための理解促進を図るとともに、行政と連携した仕組みづくりを推進します。

具体的な施策	主な取組
<p>つながる窓口【社会福祉課】【障害福祉課】【子ども支援課】【関係課所】</p> <p>若者が将来への不安を持つ中で、その悩み等を相談してきた際、若者同士で相談し合える窓口となるとともに、必要に応じて行政窓口につなげる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ (仮称) 若者支援ワンストップカウンターと各種行政窓口との連携(障害・貧困・子育て・住まい等)
<p>多様な生き方への理解促進【文化・国際課】【男女共同参画推進室】【社会福祉課】【健康づくり推進課】【指導課】</p> <p>ジェンダー平等の視点を入れた学びの充実や、多文化共生、障害・貧困などへのサポートの必要性への理解促進を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ジェンダー平等等を考える機会の提供(再掲) ■ 男女共同参画推進事業との連携(再掲) ■ 子育て知識・技術の習得事業の充実(再掲) ■ 外国人への通訳支援(再掲) ■ 生活困窮者学習支援へのサポート

基本施策② ライフステージサポートの仕組みづくり

若者世代が日立市に住むことが楽しい、働く場として日立市を選択したいと思えるような、生活場面でのライフステージに応じた支援を分かりやすく発信します。

具体的な施策	主な取組
<p>ひたちびとロールモデル発掘【広報戦略課】【女性若者支援課】</p> <p>日立市で起業・創業した若者や事業所に勤務する若者、そして、地域活動を行う若者などのロールモデルの発掘を行い、生き生きと輝く姿を発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ひたちびとロールモデルの取材・紹介冊子の作成・発信
<p>ライフステージサポートプラン【女性若者支援課】【子ども支援課】【健康づくり推進課】【生涯学習課】【関係課所】</p> <p>結婚・子育て・就職などのライフステージに応じた行政支援等を若者に分かりやすく体系化した表を作成し、発信する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ ライフステージサポートプランの作成・発信

基本施策①

若者が関心を持つ情報発信の仕組みづくり

紙媒体や報道機関等での情報発信に加えて、若者世代が求める即時性と双方向性のあるSNS等を活用した情報発信と若者の視点を取り入れたコンテンツ(※)の充実を図ります。また、発信内容へのアクセスが容易にできる方法や、SNSが新たな行政サービスの提供方法となることについて検討を進めます。

具体的な施策	主な取組
<p>行政システムの強化【行政マネジメント推進課】 若者の主たる情報収集ツールとなっているスマートフォンに対応した情報発信として、若者の視点を取り入れた、アプリなどの行政システムを構築する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者が活用したくなるひたちアプリの充実
<p>情報発信強化事業【広報戦略課】【シティープロモーション推進課】 行政の既存の媒体に若者世代の視点を取り込んだコンテンツ※を発信する。 また、新たな広報媒体の導入検討についても若者のアイデアを取り入れる機会をつくる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者による広報誌の発行 ■ SNSやポッドキャスト※等の活用検討 ■ 大学生モニター(ガクレポ)による市報の取材及び記事掲載 ■ 行政放送で若者の活動を紹介する番組制作 ■ 若者によるケーブルテレビ JWA Y・FMひたちへの出演

基本施策②

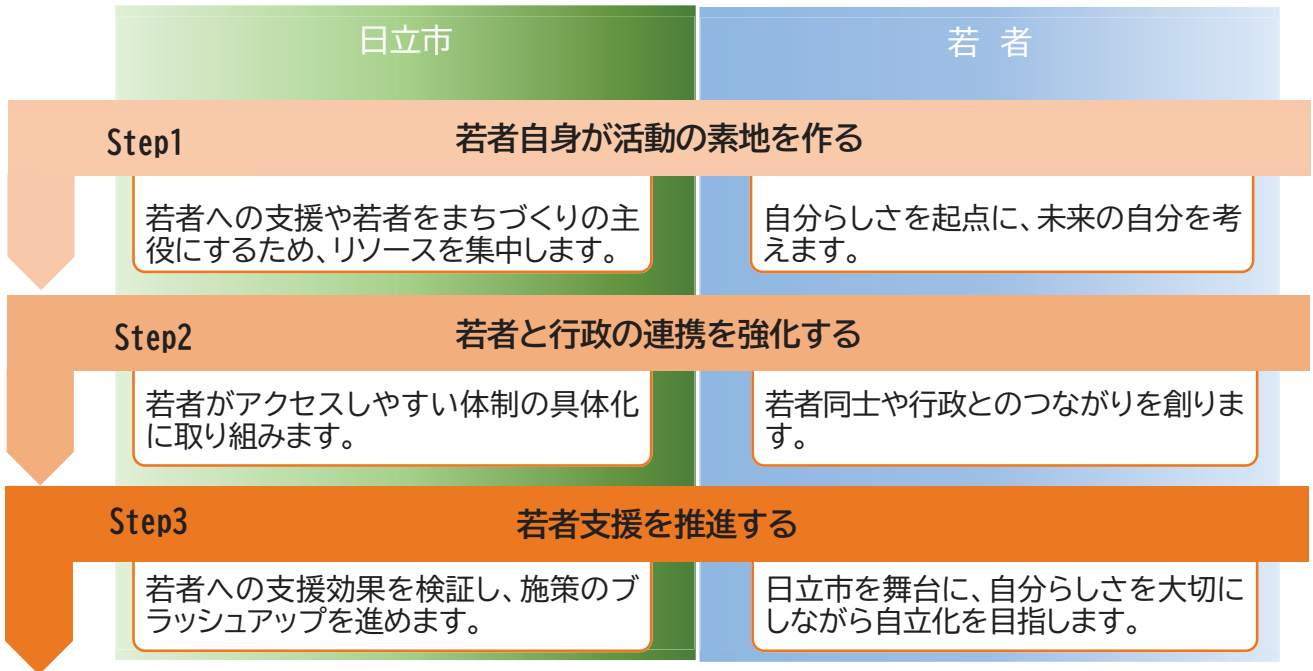
日立市に根付いた若者活動の発信

若者の挑戦する姿や多世代の活躍する姿などをSNS等により発信し、まちの活性化や関係人口創出等に努めます。また、発信する情報は、若者視点を取り込み、求められるコンテンツ(※)の充実を図ります。

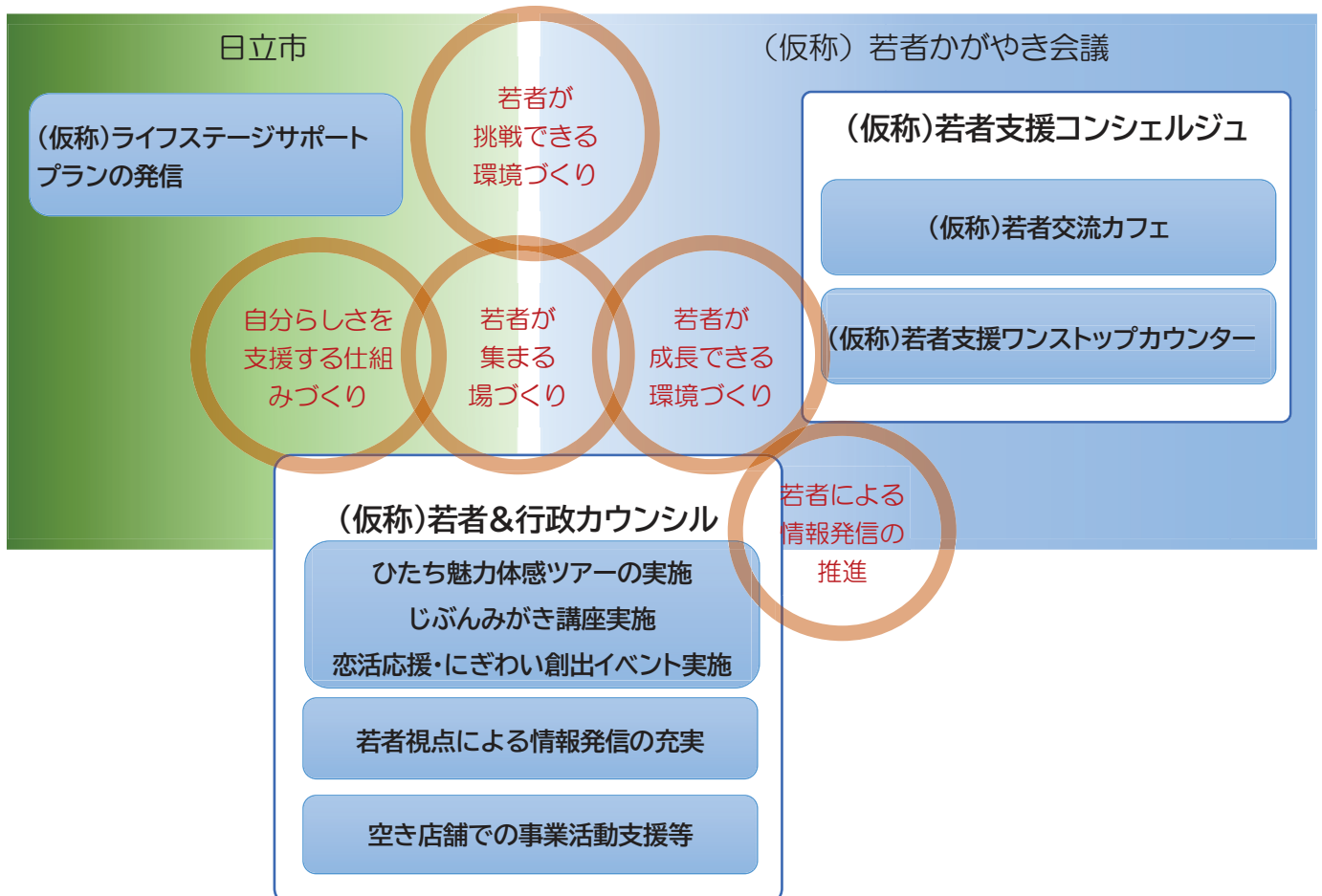
具体的な施策	主な取組
<p>情報発信強化事業【広報戦略課】【シティープロモーション推進課】(再掲) 行政の既存の媒体に若者世代の視点を取り込んだコンテンツを発信する。 また、新たな広報媒体の導入検討へも若者のアイデアを取り入れる機会をつくる。</p>	<p>(再掲)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 若者による広報誌の発行 ■ SNSやポッドキャスト等の活用検討 ■ 大学生モニター(ガクレポ)による市報の取材及び記事掲載 ■ 行政放送で若者の活動を紹介する番組制作 ■ 若者によるケーブルテレビ JWA Y・FMひたちへの出演
<p>ひたちびと活動発信事業【広報戦略課】【シティープロモーション推進課】 (仮称)ひたち若者ががやき会議を中心とした若者の活動をSNSや広報誌など様々な媒体を活用して随時発信するとともに、市外で活躍する日立市出身者と連携を図り、日立市の情報発信を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 若者と行政の協働によるSNS等での発信 ■ 市外で活躍する若者の取材・発信

第Ⅶ章 計画の取り組み方

この計画は、日立市（行政）と若者が協働しながら取り組めるよう、計画期間である5年間で次の3つのステップで推進していきます。



また、本計画で位置付けた組織や施策の推進するための、日立市と若者（（仮称）若者かがやき会議）の役割は、次のように想定します。



第Ⅳ章 計画のロードマップ

1 ロードマップ設定の考え方

計画で位置づけた具体的な施策を、計画の取り組み方で示した3つのステップで着実に推進できるよう、以下の区分に設定します。

ステップ	区分
Step 1 若者自身が活動の素地を作る	短期 2年以内に着手し推進
Step 2 若者と行政の連携を強化する	中期 3年以内に着手し推進
Step 3 若者支援を推進する	長期 計画期間内に着手し推進

2 ひたち若者かがやきプラン ロードマップ

【基本方針1】若者が挑戦できる環境づくり

→ 実施期間 準備期間

基本施策	主な取組	区分			備考
		短期	中期	長期	
若者のアイデアを実践できる組織づくり	<input type="checkbox"/> (仮称)若者かがやき会議の設立・運営・自立化	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> (仮称)若者支援ワンストップカウンターの設置	●	→	→	新規
若者世代の不安を解消できる仕組みづくり	<input type="checkbox"/> (仮称)若者支援コンシェルジュの育成プログラム整備及び配置	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 若者サポーターの募集・配置	●	→	新規
若者と行政の連携・交流促進	<input type="checkbox"/> (仮称)若者&行政カウンスルの設立	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 若者と行政の共同研修会の実施	●	→	新規
	<input type="checkbox"/> 若者の視点・思考活用プロジェクト	●	→	新規
若者実践による出会い・発見・にぎわい創出	<input type="checkbox"/> 恋活応援の実施	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 賑わい創出イベントの拡充	●	→	→	
	<input type="checkbox"/> じぶんみがき講座の開催	●	→	→	
各種コミュニティとの連携(地域形成支援)	<input type="checkbox"/> 各種コミュニティとの連携	●	→	新規
	<input type="checkbox"/> 各種コミュニティへの参加機会創出	●	→	新規
	<input type="checkbox"/> 地域コミュニティへの参加機会創出	●	→	新規
	<input type="checkbox"/> (仮称) ひたち若者かがやき会議と連携協定大学の連携	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 学生プロジェクト成果の情報共有	●	→	→	

【基本方針2】 若者が集まる場づくり

基本施策	主な取組	短期	中期	長期	備考
若者が気軽に集える場所づくり	<input type="checkbox"/> 若者の場所の整備	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 求められるツールの導入検討	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 若者活動拠点の仕組みづくり	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 交流の場の創出●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 若者定住促進機会の創出●	→	→	新規
若者によるコミュニティづくり	<input type="checkbox"/> まちや地域の人々との交流の場の創出●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 企業と学生・若者をつなぐ場の創出	●	→	→	新規
	<input type="checkbox"/> 起業・創業に向けた交流機会の創出●	→	→	新規

【基本方針3】 若者が成長できる環境づくり

基本施策	主な取組	短期	中期	長期	備考
キャリア形成・生きる力を養う	□日立市で働くこと、暮らすことについての体験プログラムの開発	●	→	→	新規
	□職業探検少年団、文化少年団との連携	●	→	→	
	□楽しく日立を学ぶアイテムの開発	●	→	→	新規
	□ひたち大好き博士募集	●	→	→	
	□確かな学力育成事業	●	→	→	
	□自分自身の将来を考える機会の提供	●	→	→	
	□外国人への通訳支援	●	→	→	
	□ジェンダー平等を考える機会の提供	●	→	→	
	□男女共同参画推進事業との連携	●	→	→	
	□子育て知識・技術の習得事業の充実	●	→	→	
ひたちらしさと若者の融合	□企業が求めるスキル、若者が持つスキルのデータベース化とマッチング支援	●	→	→	新規
	□地域就労支援強化事業	●	→	→	
	□地域雇用創出支援事業	●	→	→	
	□人材募集市内企業のデータベース作成	●	→	→	新規
	□(仮称)若者交流カフェでの企業情報の発信	●	→	→	新規
	□(仮称)若者支援ワンストップカウンターでの起業・創業、就職情報の発信強化	●	→	→	新規
	□多様な媒体を活用した発信強化	●	→	→	
	□移住促進事業の活用	●	→	→	
	□日立市の地域遺産（自然）を生かし、若者と連携した事業の構築	●	→	→	新規
□中里地区、中山間地域の活性化への連携	●	→	→		

基本施策	主な取組	短期	中期	長期	備考
働き方や暮らし方の多様性への対応	<input type="checkbox"/> 空き店舗、空き工場のデータベース化●----->			新規
	<input type="checkbox"/> 不動産所有者と使いたい若者を繋ぐ窓口の創出●----->			
	<input type="checkbox"/> 起業・創業セミナーの開催	●----->			
	<input type="checkbox"/> 若者向け起業・創業ガイドラインの作成●----->			
	<input type="checkbox"/> 若者資格取得補助事業	●----->			新規
	<input type="checkbox"/> 女性の就業専門資格取得等補助事業	●----->			
	<input type="checkbox"/> 創業支援ネットワークとの連携●----->			新規
	<input type="checkbox"/> 働きやすい環境づくり支援事業	●----->			
	<input type="checkbox"/> 働き方改革推進モデル企業奨励金交付事業	●----->			
	<input type="checkbox"/> 休暇取得への理解促進啓発	●----->			
	<input type="checkbox"/> 子育て知識・技術の習得事業の充実（再掲）●----->			
	<input type="checkbox"/> 男性育児休暇取得の促進	●----->			
	<input type="checkbox"/> （仮称）若者交流カフェへのコワーキングスペース等設置●----->			
	<input type="checkbox"/> 街なかマイクロクリエイションオフィス入居者支援補助	●----->			
	<input type="checkbox"/> 公共施設へのフリーwi-fi整備	●----->			

【基本方針4】 自分らしさを支援する仕組みづくり

基本施策	主な取組	短期	中期	長期	備考
生きづらさを抱えた若者の支援	<input type="checkbox"/> （仮称）若者支援ワンストップカウンターと各種行政窓口との連携●----->			新規
	<input type="checkbox"/> ジェンダー平等等を考える機会の提供（再掲）	●----->			
	<input type="checkbox"/> 男女共同参画推進事業との連携（再掲）	●----->			
	<input type="checkbox"/> 子育て知識・技術の習得事業の充実（再掲）●----->			
	<input type="checkbox"/> 外国人への通訳支援（再掲）	●----->			
	<input type="checkbox"/> 生活困窮者学習支援サポート	●----->			
ライフステージサポートの仕組みづくり	<input type="checkbox"/> ひたちびとロールモデルの取材・紹介冊子のコンテンツ作成	●----->			
	<input type="checkbox"/> ライフステージサポートプランの作成・発信	●----->			

【基本方針5】 若者による情報発信の推進

基本施策	主な取組	短期	中期	長期	備考
若者が関心を持つ情報発信の仕組みづくり	<input type="checkbox"/> 若者が活用したくなるひたちアプリの充実●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 若者による広報誌の発行●————→			新規
	<input type="checkbox"/> SNSやポッドキャスト等の活用検討●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 大学生モニター（ガクレポ）による市報の取材及び記事掲載	●————→			
	<input type="checkbox"/> 行政放送で若者の活動を支援する番組制作●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 若者によるケーブルテレビJWAY・FMひたちへの出演	●————→			新規
日立市に根付いた若者活動の発信	<input type="checkbox"/> 若者による広報誌の発行（再掲）●————→			新規
	<input type="checkbox"/> SNSやポッドキャスト等の活用検討（再掲）●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 大学生モニター（ガクレポ）による市報の取材及び記事掲載（再掲）	●————→			
	<input type="checkbox"/> 行政放送で若者の活動を支援する番組制作（再掲）●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 若者によるケーブルテレビJWAY・FMひたちへの出演（再掲）	●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 若者と行政の協働によるSNS等での発信●————→			新規
	<input type="checkbox"/> 市外で活躍する若者の取材・発信●————→			新規

